



令和2年度スクールカウンセラー及びスクール ソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究 報告書概要



令和3年3月
文部科学省
(調査事業受託者 大阪府立大学)

目次

I. 調査の全体像

II. SCer・SSWerの教職員との連携に関する調査

- 1-1. 因子分析：教職員の連携に影響を及ぼす要因の抽出
- 1-2. 因子得点：SCer・SSWer・スクリーニング会議による影響の相違
- 2. 児童の課題への対応策の選択傾向：SCer・SSWer・スクリーニング会議による影響

III. YOSSの活用による変容に関する調査

- 1. 子どもに関すること～子ども自身～
- 2. 子どもに関すること～子どもに使うサービス～
- 3. 教師に関すること～学校・組織～
- 4. 教師に関すること～教師の意識・知識～

調査の全体像

課題① 子ども：

教師が問題視しないと子どもの問題は表面化されず早期発見・早期対応がなされない

課題② スクールカウンセラー(SCer)およびスクールソーシャルワーカー(SSWer)：

職務内容が自治体によって違いがあり、教師の認識もばらばらで有効活用がされないこと

課題③ 教師：

抱え込みからチームになりにくく負担が過重になる

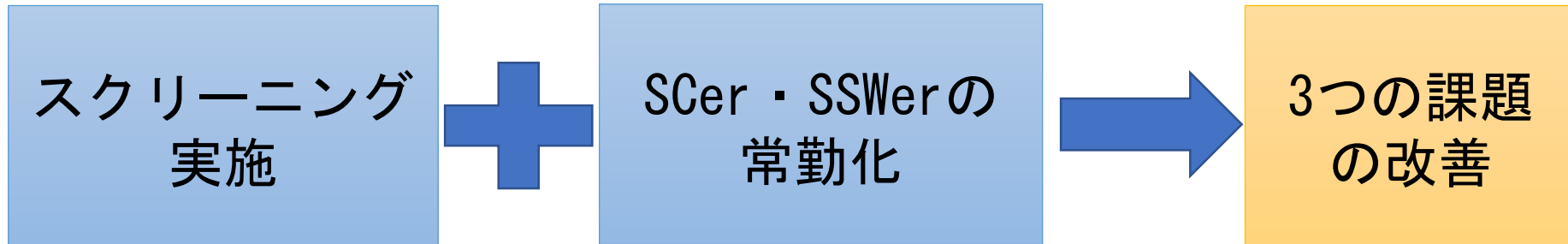
学校での重大事案の発生予防機能の低下

いじめ、児童虐待など児童生徒の命に係わる重大事案発生

SCerやSSWerにつながる校内組織、SCerやSSWerの質向上、質を維持する教育委員会内の体制などが必要であろう。

調査の全体の目的

- 本調査では、**児童の課題のスクリーニングが有効**であり、これを機能させるには**SCer・SSWerの常勤化が有効である**という二段階の仮説を立て、これをスクリーニング実施校と未実施校の比較、スクリーニングの事前事後の比較などによって検証し、学校体制、教職員間の連携体制との関連、SCerやSSWerの職責や職務役割などについて検討する。



実施内容

A. スクリーニングの取り組みによる効果的な常勤化方策の検証

1. SCer・SSWerの教職員との連携に関する調査（スクリーニング実施校・未実施校）
2. スクリーニング活用に関する調査（スクリーニング実施前後）
3. スクリーニング訪問支援と意見交換
 - ・ 訪問支援：25回（自治体数13）
 - ・ 大阪府立大学におけるワークショップ：2回（合計201名参加）

B. 「SCerやSSWerガイドライン」の実施による常勤化との関連

- ・ SCer・SSWerの役割の明確化のために、既に「SCerやSSWerガイドライン」を具体的動きに落とし込んだプログラム実施の手引き、さらにスクリーニングを入れ込んだ手引き、これらの動きを作るSVerの手引きを作成した（別冊）。

Ⅱ．SCer・SSWerの教職員との連携に関する調査

調査概要

1 調査の目的

教師の連携による児童の課題の早期発見・対応の必要性への認識から、SCer・SSWerの配置、スクリーニング会議の実施による教職員間の連携状況の変化を明らかにすることを目的とする。

2 調査対象

小・中学校教職員

3 調査実施日

令和2年8月31日～令和2年10月19日

4 調査方法

令和2年8月1日本研究室主催の研究会への参加者の所属市区町村より33自治体を抽出し、対象となる自治体の教育委員会に向け調査票を発送し、各教育委員会にて指定された小・中学校へ逡送を通じて配布された。回答後の調査票については、各市町の教育委員会に取りまとめの上、郵送にて回収した。

5 回収率

回収数：2,527、回収率（学校数ベース）：36.4%

1-1. 因子分析

～教職員の連携に影響を及ぼす要
因の抽出～

教職員間の連携に関する調査：5つの要因の抽出

・ 調査項目

既存研究の調査の参照：教師間の連携、教育相談体制、SCer・SSWerの支援に関する68項目を調査項目に設定

⇒因子分析：5つの因子を抽出

因子1:教育相談体制

- ・ 教育相談係:解決すべき問題を明確化
- ・ 協力体制が得られるような働きかけ etc.

因子2:教師による児童の課題への対応

- ・ 教職員間で子どもの様子について自由に話をする雰囲気
- ・ 生徒の支援をみんなで抱え、取り組もうとする姿勢 etc.

因子3:SCer・SSWerによる教師援助

- ・ SCer/SSWerの活動による担任の負担軽減
- ・ SCer/SSWerの活動による担任の抱え込み軽減 etc.

因子4:校長の変革的リーダーシップ

- ・ 校長の校内研修会における確かな助言・指導
- ・ 校長の説得力・影響力 etc.

因子5:教育相談活動への意欲

- ・ 教育相談の校内研修の希望
- ・ 子どもの問題の検討会の計画を希望 etc.

1-2. 因子得点

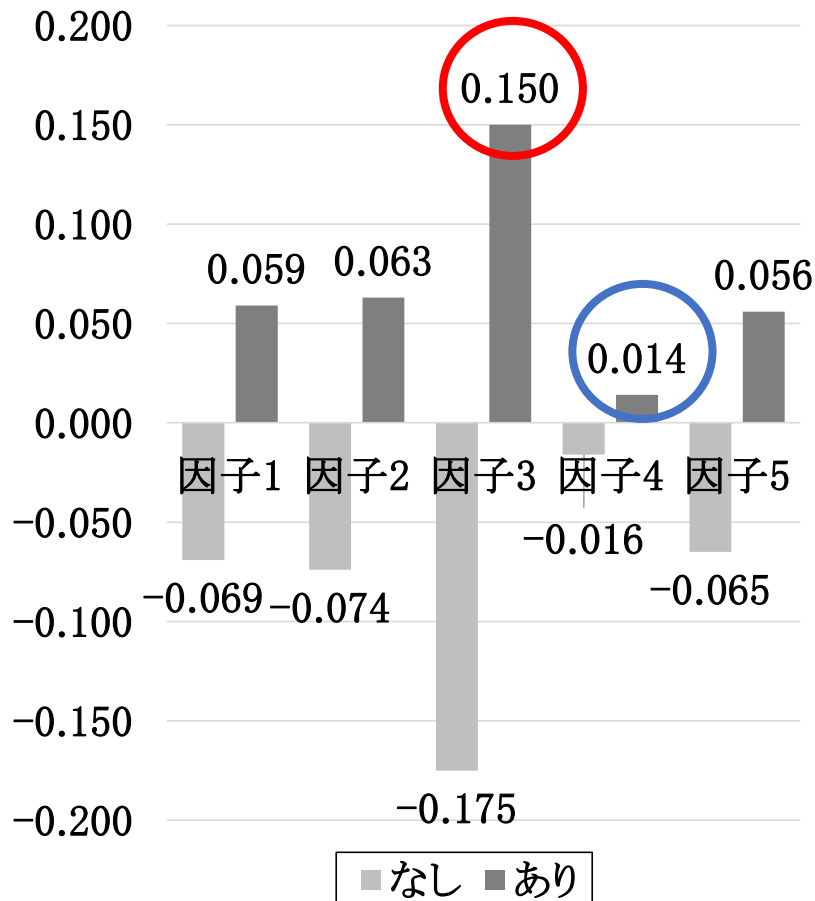
～SCer・SSWer・スクリーニング
会議の実施による影響の相違～

教職員間の連携：SCerの配置による影響

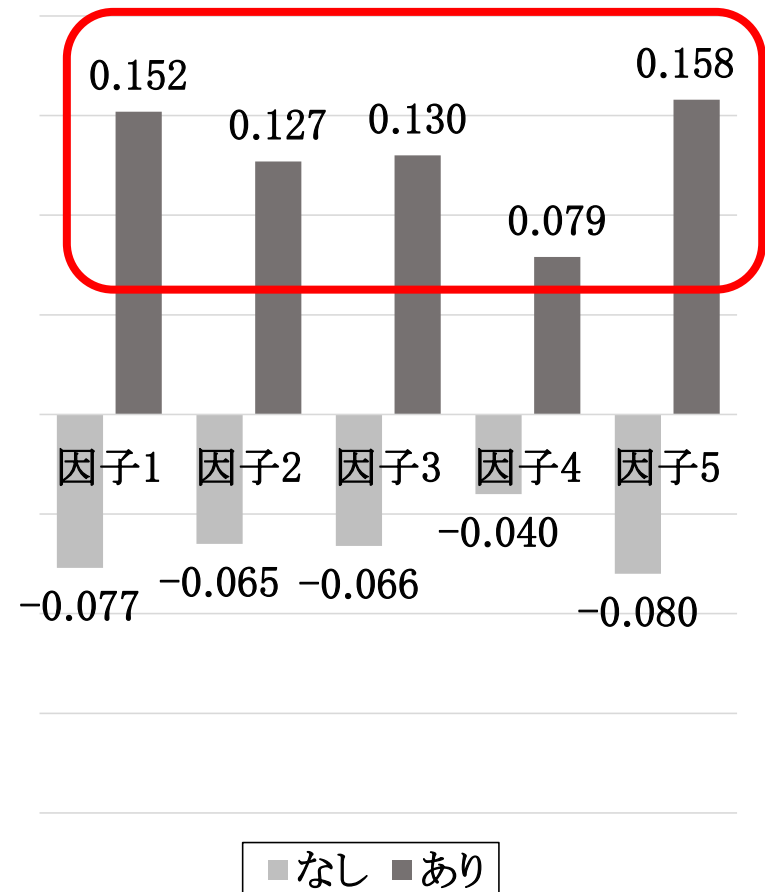
- SCerの配置：因子3に与える影響は顕著
⇒SCerによる支援の認識がより高い。
⇔因子4の影響が不明確
- スクリーニング会議：全てプラスの影響

- 因子1：教育相談体制
- 因子2：教師による児童の課題への対応
- 因子3：SCerによる教師援助
- 因子4：校長の変革的リーダーシップ
- 因子5：教育相談活動への意欲

SCerの配置



スクリーニング会議



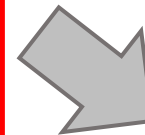
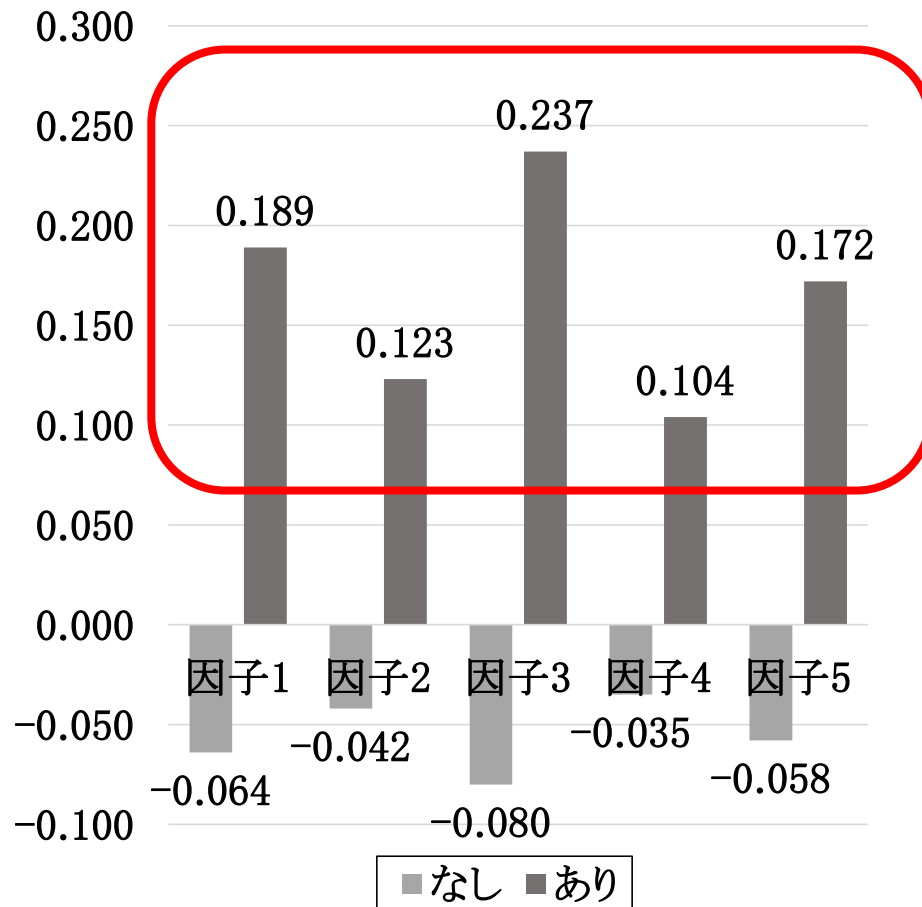
教職員間の連携：SCerの配置＋スクリーニング会議の実施

⇒単独の条件の場合より、因子2以外の因子得点は高い

⇒より明確なプラスの効果がみられた

- ・ 因子1：教育相談体制
- ・ 因子2：教師による児童の課題への対応
- ・ 因子3：SCerによる教師援助
- ・ 因子4：校長の変革的リーダーシップ
- ・ 因子5：教育相談活動への意欲

SCerの配置×スクリーニング会議の実施



教職員間の連携への影響

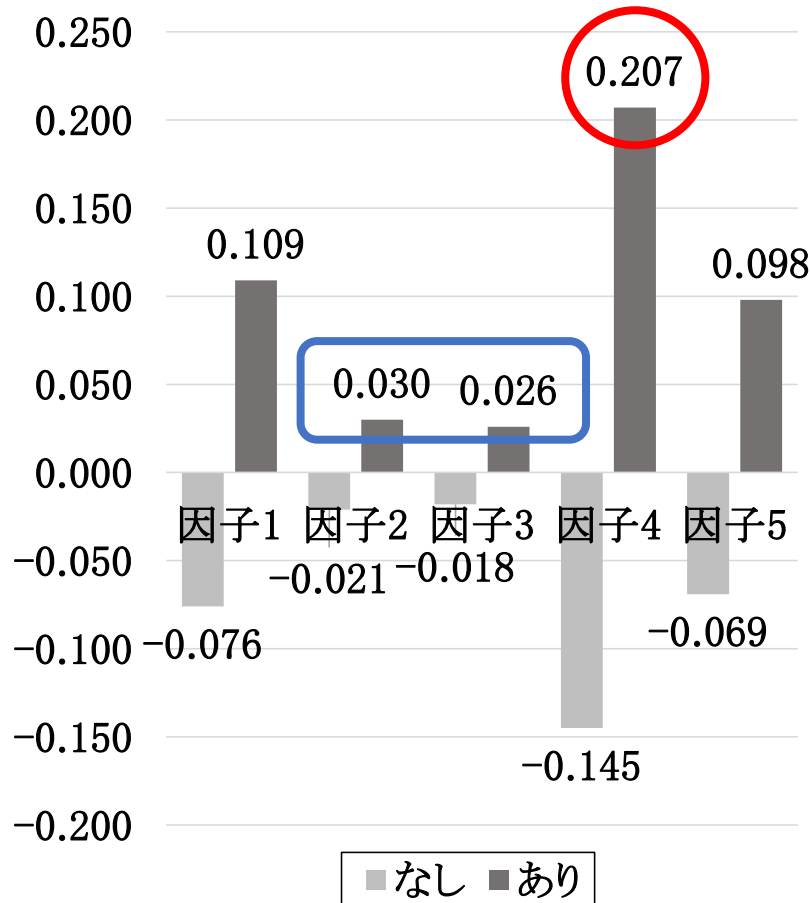
SCerの配置＋スクリーニング会議の実施＞SCerの配置

教職員間の連携：SSWerの配置による影響

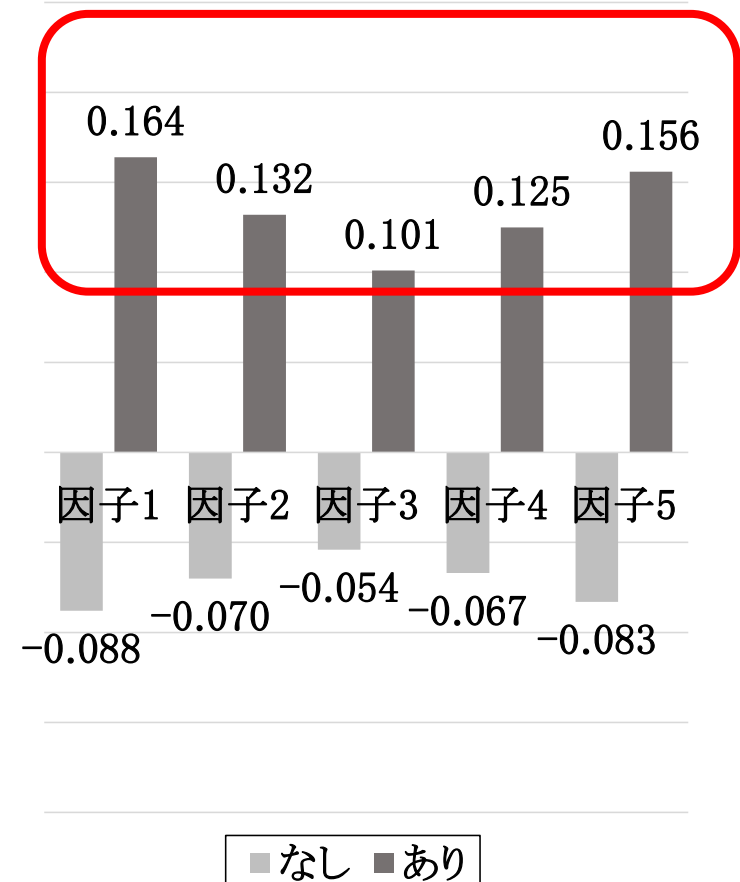
- SSWerの配置：因子4に与える影響は顕著
⇒SSWerによる支援の認識がより高い。
⇔因子2・3の影響が不明確
- スクリーニング会議：全てプラスの影響

- 因子1：教育相談体制
- 因子2：教師による児童の課題への対応
- 因子3：校長の変革的リーダーシップ
- 因子4：SSWerによる教師援助
- 因子5：教育相談活動への意欲

SSWerの配置



スクリーニング会議の実施

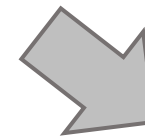
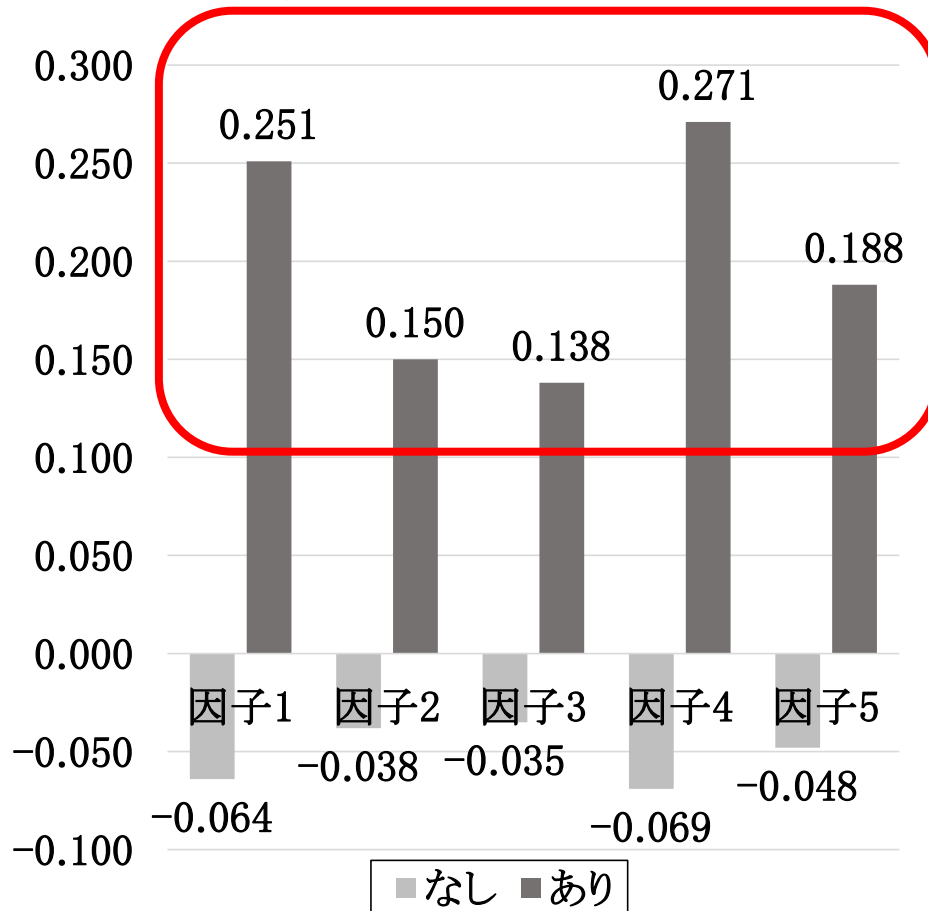


教職員間の連携：SSWerの配置＋スクリーニング会議の実施

⇒単独の条件の場合より、全ての因子得点は高い

- ・ 因子1：教育相談体制
- ・ 因子2：教師による児童の課題への対応
- ・ 因子3：校長の変革的リーダーシップ
- ・ 因子4：SSWerによる教師援助
- ・ 因子5：教育相談活動への意欲

SSWerの配置×スクリーニング会議の実施



教職員間の連携への影響

SSWerの配置＋スクリーニング会議の実施＞SSWerの配置

SCer・SSWerの配置、スクリーニング会議の実施 ～教職員の連携への影響

- 本調査により、教職員の連携に影響を与える**5要因**が抽出された。
 - 教育相談体制
 - 教師による児童の課題への対応
 - SCer・SSWerによる教師援助
 - 校長の変革的リーダーシップ
 - 教育相談活動への意欲
- ⇒**SCer・SSWerの配置とスクリーニング会議の併用**により、ほとんどの要因で**プラスの影響が大きい**状態が明らかになった。
- **SCer・SSWerの配置のみ**では、それぞれの要因の好影響が得られたが、併用ほど効果が大きくないことが示唆された。
 - これら専門職の配置のみでは必ずしも教職員の連携全般への好影響に結びつかず、**スクリーニング会議を実施することで、連携を高める必要性**が示された。

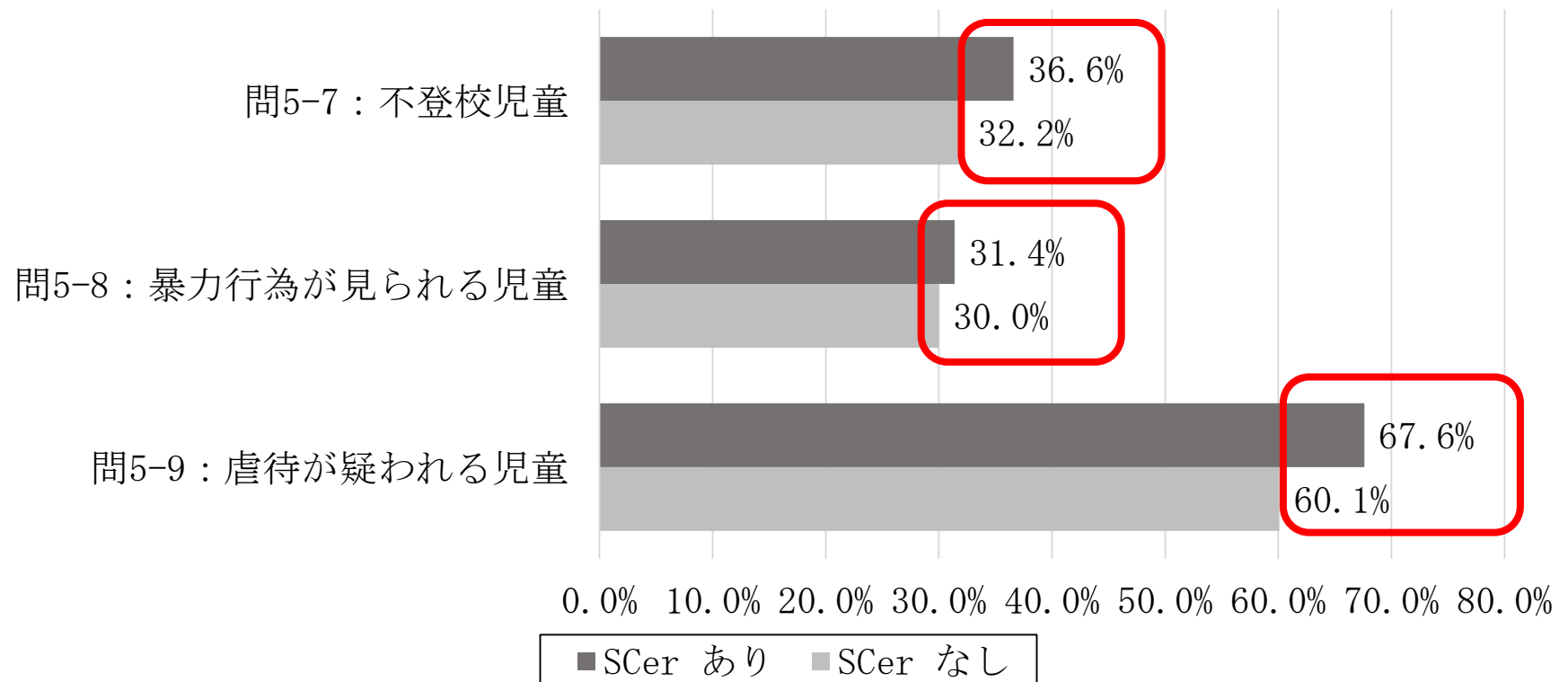
2. 児童の課題への対応策 の選択傾向

～SCer・SSWer・スクリーニング
会議が及ぼす影響～

児童の課題への対応策の選択：SCerの配置

- SCerの配置：問5-7～9「C：専門機関を紹介する」割合が高い
 - より深刻な課題…専門機関をより活用する傾向

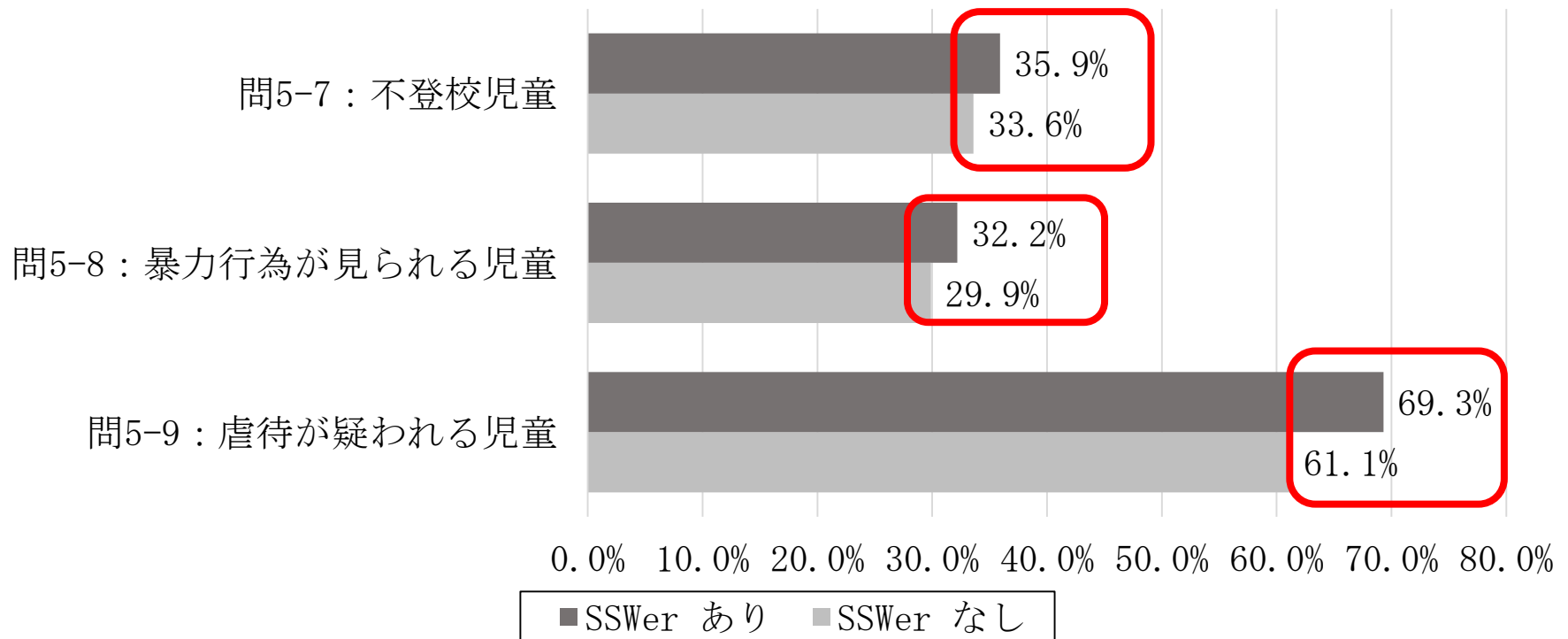
SCerの配置と「C：専門機関を紹介する」の選択割合



児童の課題への対応策の選択：SSWerの配置

- SSWerの配置：問5-7～9「C：専門機関を紹介する」割合が高い
 - SCerの配置と同様の傾向
 - より深刻な課題…専門機関をより活用する傾向

SSWerの配置と「C：専門機関を紹介する」の選択割合



児童の課題への対応策の選択：スクリーニングの会議の有無

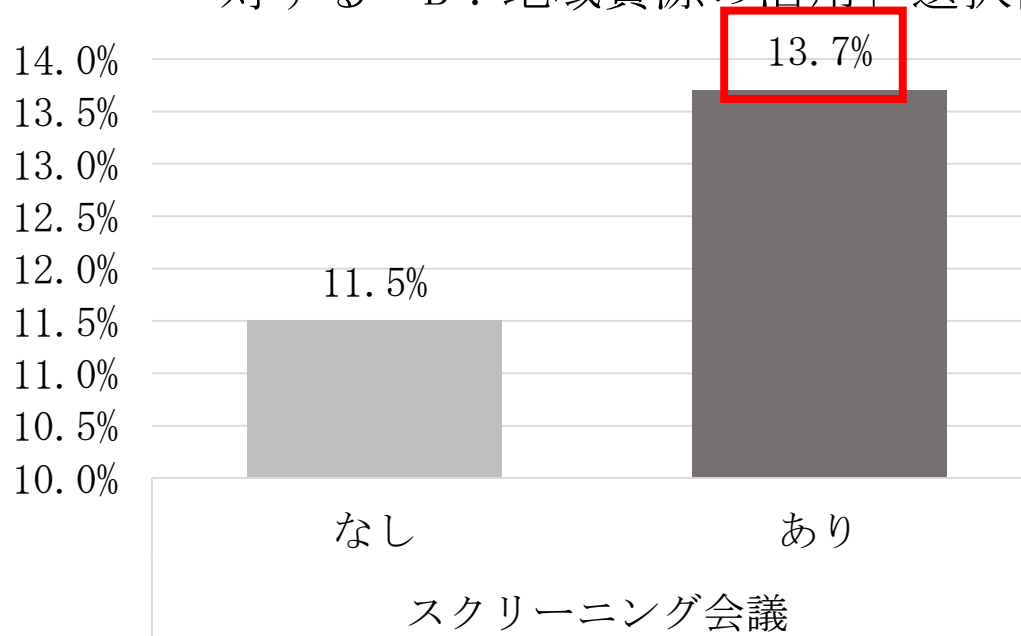
- スクリーニング会議：問5-6「髪や服の汚れ・臭いが気になる児童」

⇒「B：地域資源を活用する」の選択割合が高い

- 地域資源による児童の課題への対応を認識

⇒スクリーニング会議の実施による効果

問5-6：髪や服の汚れ・臭いが気になる児童に対する「B：地域資源の活用」選択割合



SCer・SSWerの配置、スクリーニング会議の実施 ～児童の課題への対応策の選択傾向

- 児童の課題への対応策として、回答者の教職員が以下の3つのどれを選択するかに関し、調査を行った。
 - A：教職員が複数で対応する
 - B：地域資源を活用する
 - C：専門機関を紹介する
- SCer・SSWerの配置が行われている場合、不登校・暴力行為・虐待といったより深刻な児童の課題に対し、「C：専門機関を紹介する」を選択する割合が高いことが明らかになった。
- スクリーニング会議を実施している場合、髪や服の汚れ・臭いが気になる児童に対し、「B：地域資源の活用」割合が高いことが明らかになった。
- これら専門職の配置、スクリーニング会議の実施により、児童の課題への対応策として、地域資源や専門機関をより活用するという認識が高められていることが示唆された。

Ⅲ. YOSSの活用による変容 に関する調査

調査概要

調査概要

1 調査の目的

子どもの問題を早期発見し、チームによる判断がなされ、適切な支援につながることを目標に開発されたスクリーニングシート（YOSS=Yamano Osaka Screening-Sheet）の活用による、SC・SSWの効果的な常勤化方策の検証を行うことを目的とする。

2 調査対象

小中学校教職員（940名）

3 調査実施日

令和2年10月29日～令和2年11月27日

4 調査方法

調査時点において本研究室から提供したYOSSを活用している15の自治体を抽出し、調査対象となる自治体の教育委員会または学校に向け調査票を発送した。教育委員会発送分については各教育委員会にて指定された小・中学校へ逡送を通じて配布された。回答後の調査票については、各市町の教育委員会で取りまとめの上、郵送にて回収を得た。

5 回収率

回収数：382、回収率：40.6%

6 回答者の属性

校長	教頭	教務主任	生徒指導主任	学年主任	クラス担任	教科専科担任	養護教諭	特別支援 コーディネータ	その他	無回答
17	28	21	17	57	202	21	18	19	24	11
4.5%	7.3%	5.5%	4.5%	14.9%	52.9%	5.5%	4.7%	5.0%	6.3%	2.9%

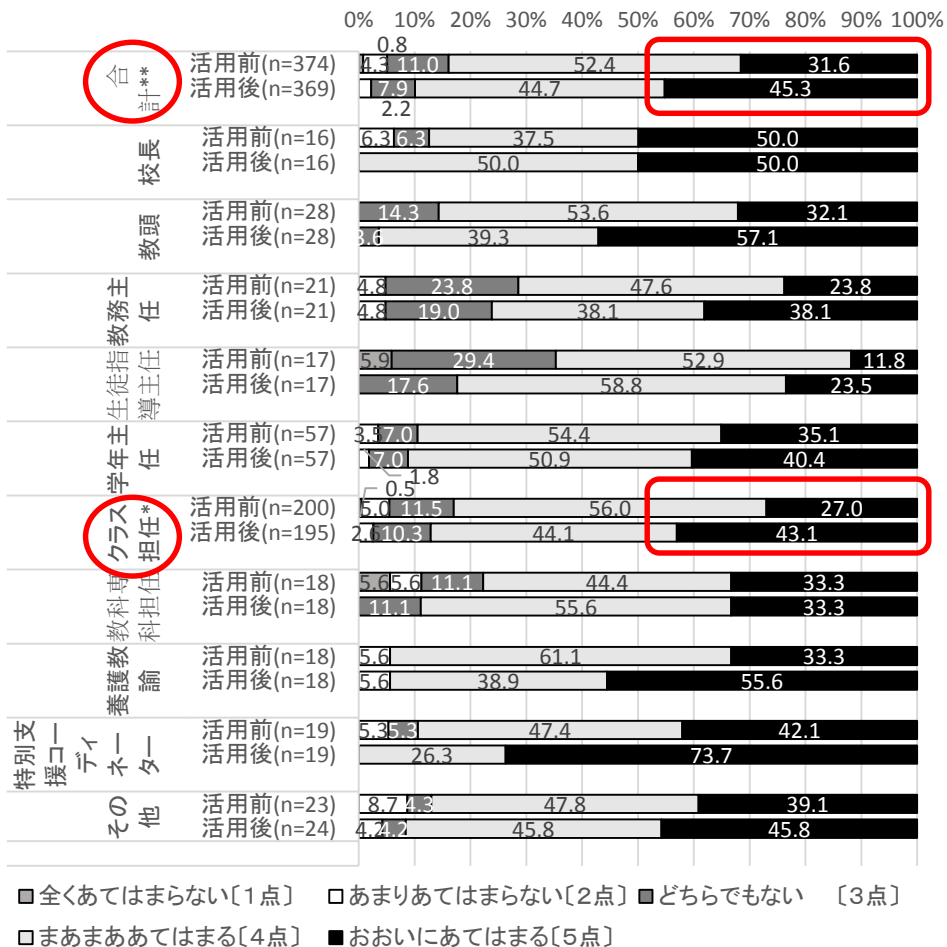
N = 382

1. 子どもに関すること ～子ども自身～

1. 子ども自身に関すること①

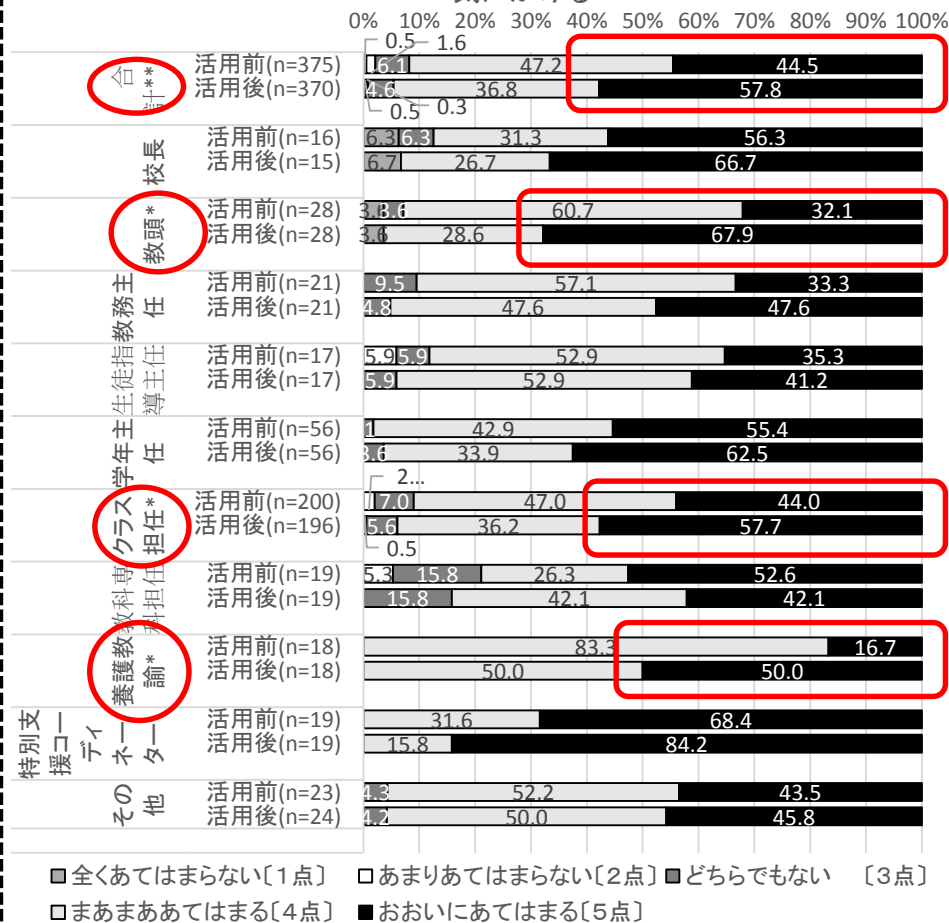
◇職種別に見た、家庭が経済的困窮状態にある児童に気をつける程度

問2-①. 家庭が経済的困窮状態にある児童に気をつける



◇職種別に見た、発育や発達の遅れ等生育上に問題があった児童に気をつける程度

問2-②. 発育や発達の遅れ等生育上に問題があった児童に気をつける

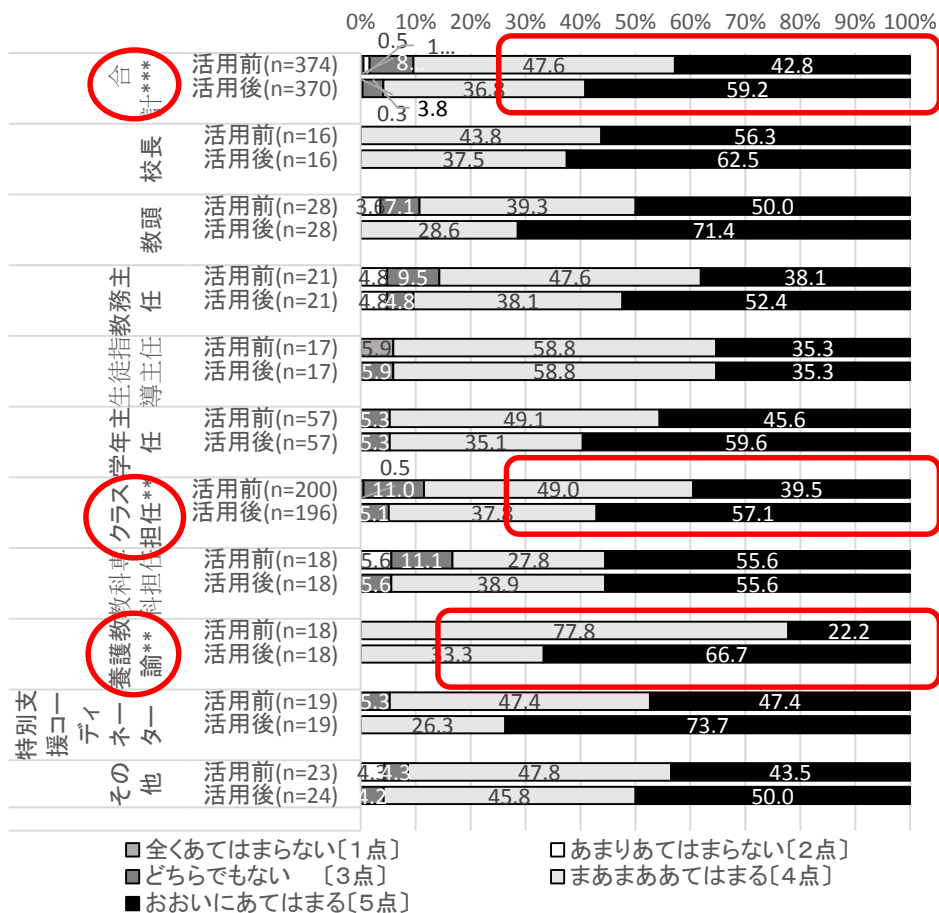


- YOSS活用前と比べ活用後の方が、家庭が経済的困窮状態にある児童、発育や発達の遅れ等生育上に問題があった児童をより気にかけるようになった。

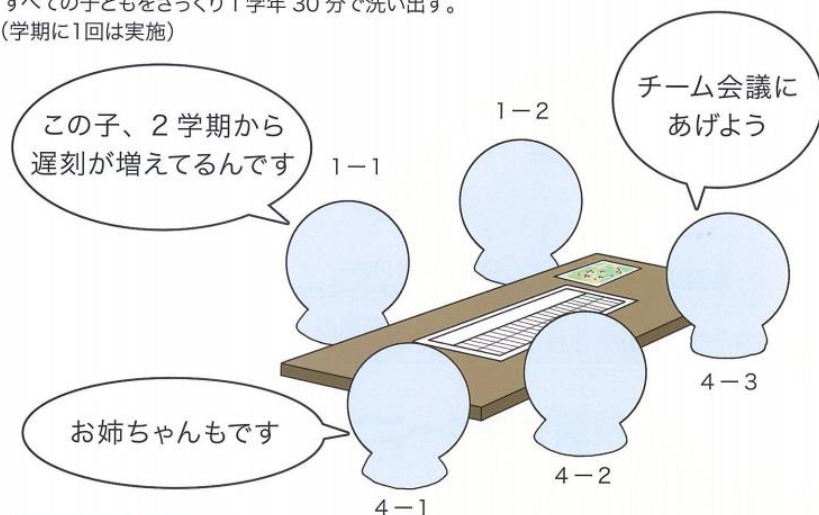
1. 子ども自身に関すること②

◇職種別に見た、複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける程度

問2-③. 複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける



すべての子どもをざっくり1学年30分で洗い出す。
(学期に1回は実施)



学校版スクリーニング ③校内チーム会議とは

スクリーニング会議において「校内チーム会議にあげる」に○がついた子について、SSWなどの多職種を交えたチームで検討を行い、支援の方向性を具体的に決定する。
【活用ツール：スクリーニングシート (P2)・資源マッピング (P3)】

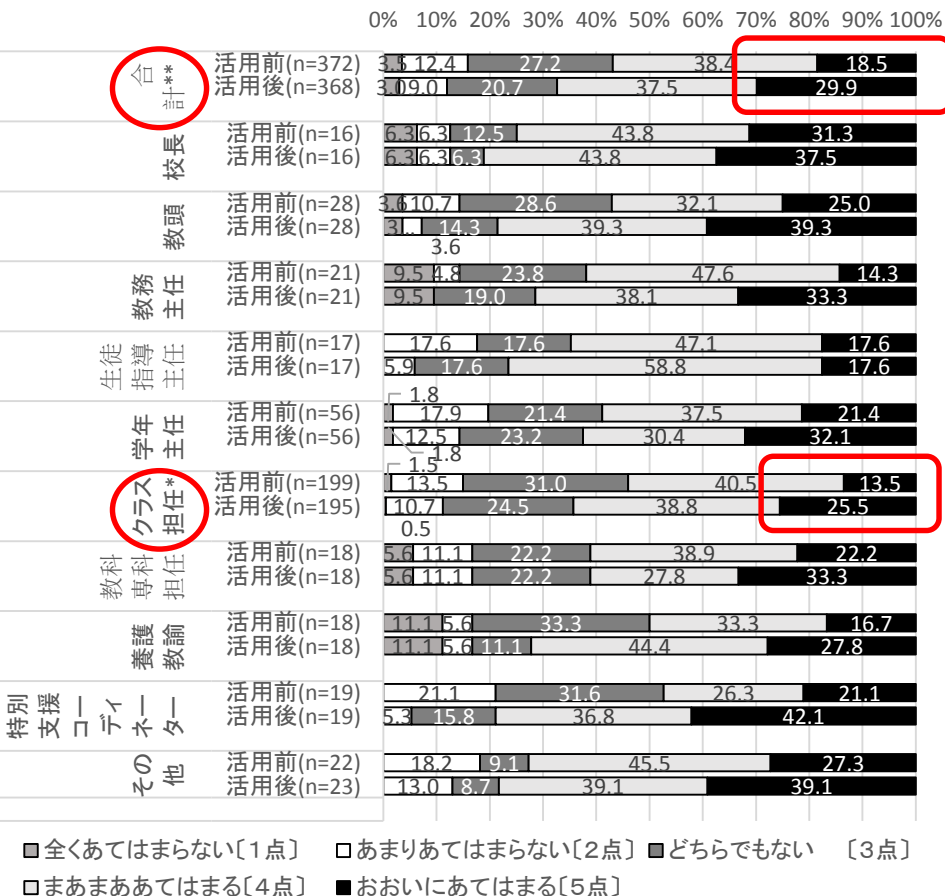


• YOSS活用前と比べ活用後の複雑な家族構成の中で暮らしている児童をより気にかけるようになった。

1. 子ども自身に関すること③

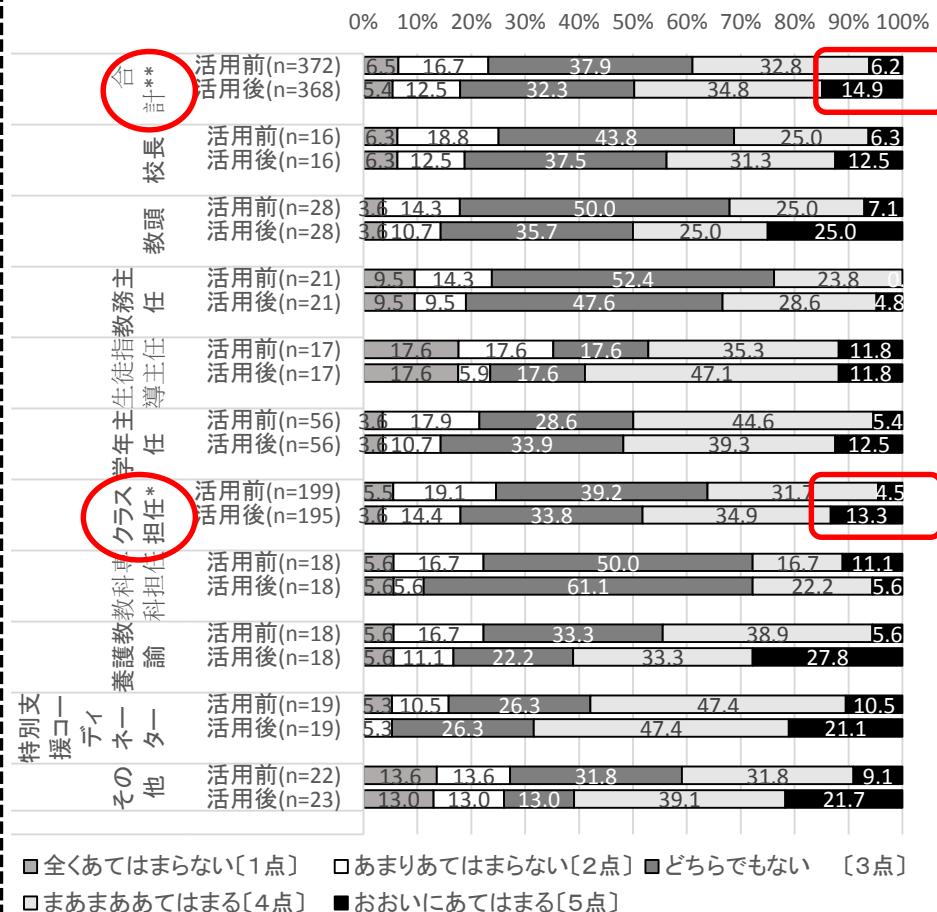
◇職種別に見た、生育歴が複雑であった保護者を気にかける程度

問2-⑤. 生育歴が複雑であった保護者を気にかける



◇職種別に見た、職種別に見た、若年出産した保護者を気にかける程度

問2-⑥. 若年に出産した保護者を気にかける

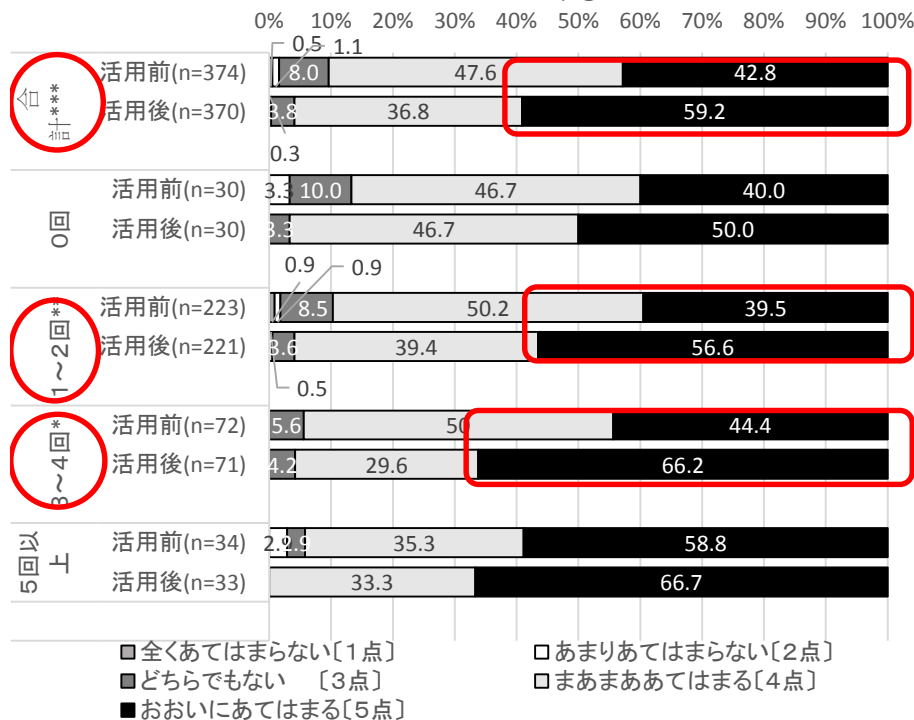


- YOSS活用前と比べ活用後の方が、生育歴が複雑であった保護者、若年出産した保護者をより気にかけるようになった。

1. 子ども自身に関すること④

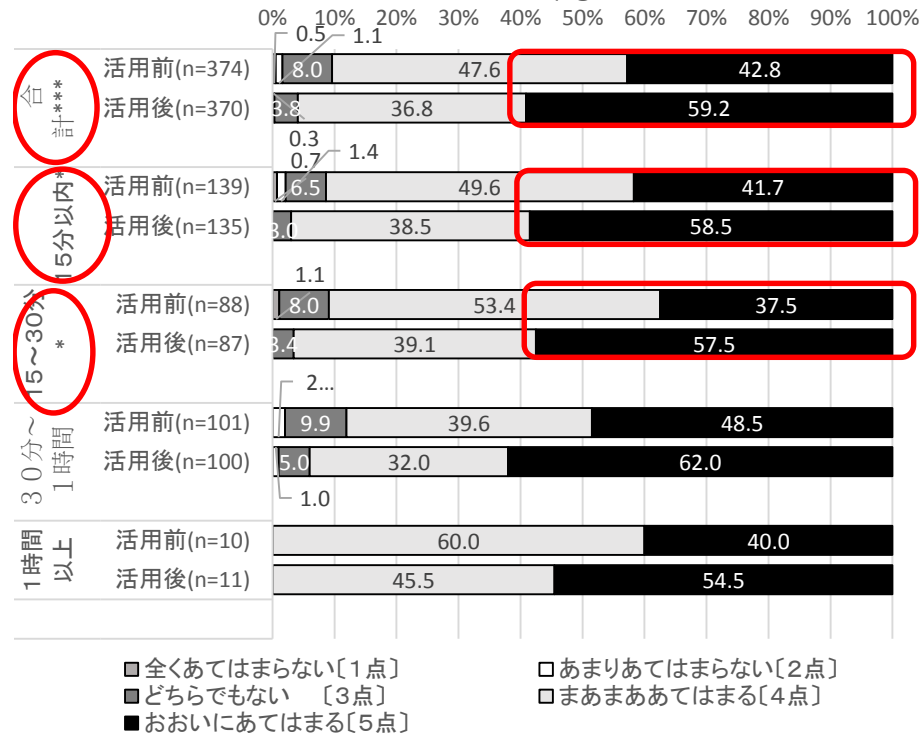
◇スクリーニングチェック実施回数別に見た、複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける程度

問2-③. 複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける



◇ひとクラスにかけるスクリーニング会議の時間別に見た、複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける程度

問20③. 複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける

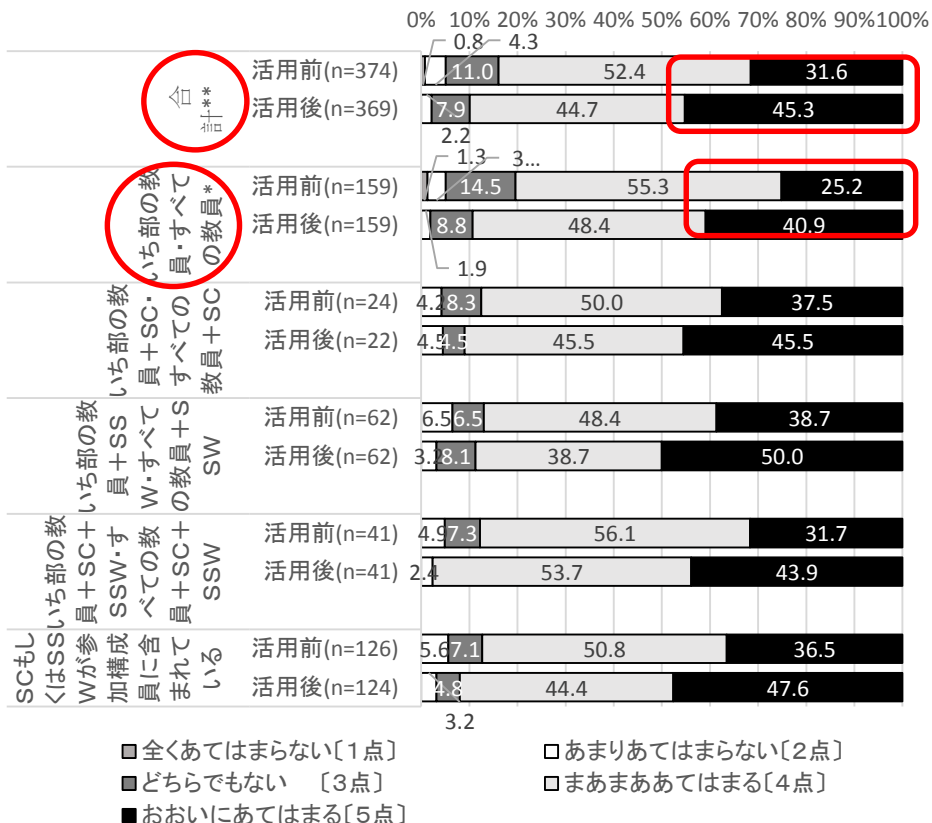


- 少ない回数（1～2回）でスクリーニングチェック、短い時間（15分以内）でスクリーニング会議が実施された場合においても、YOSS活用の効果が見られた。

1. 子ども自身に関すること⑤

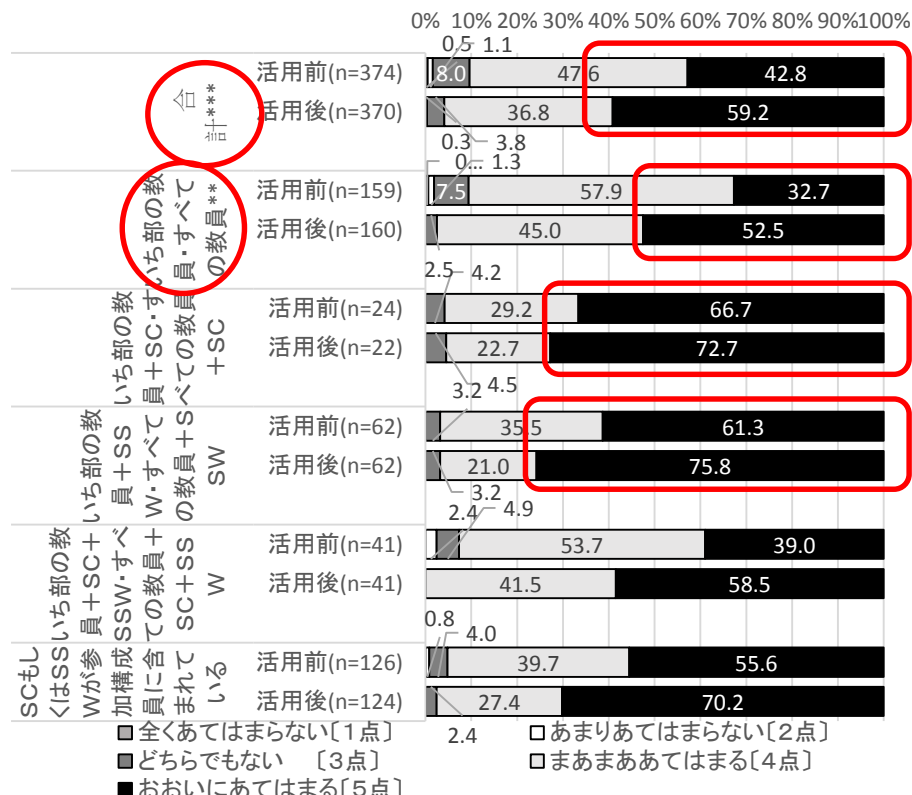
◇校内チーム会議の参加構成員別に見た、家庭が経済的困窮状態にある児童を気にかける程度

問2-①. 家庭が経済的困窮状態にある児童を気にかける



◇校内チーム会議の参加構成員別に見た、複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける程度

問2-③. 複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける



- 教員のみが校内チーム会議の参加構成員の場合においても、児童や保護者を気にかける程度におけるYOSS活用の効果が見られた。
- YOSS活用後、SCまたはSSWがいる場合はそうでない場合よりも、複雑な家族構成の中で暮らしている児童を気にかける程度が強い傾向が見られた。

子どもに関すること ～子ども自身に関するまとめ

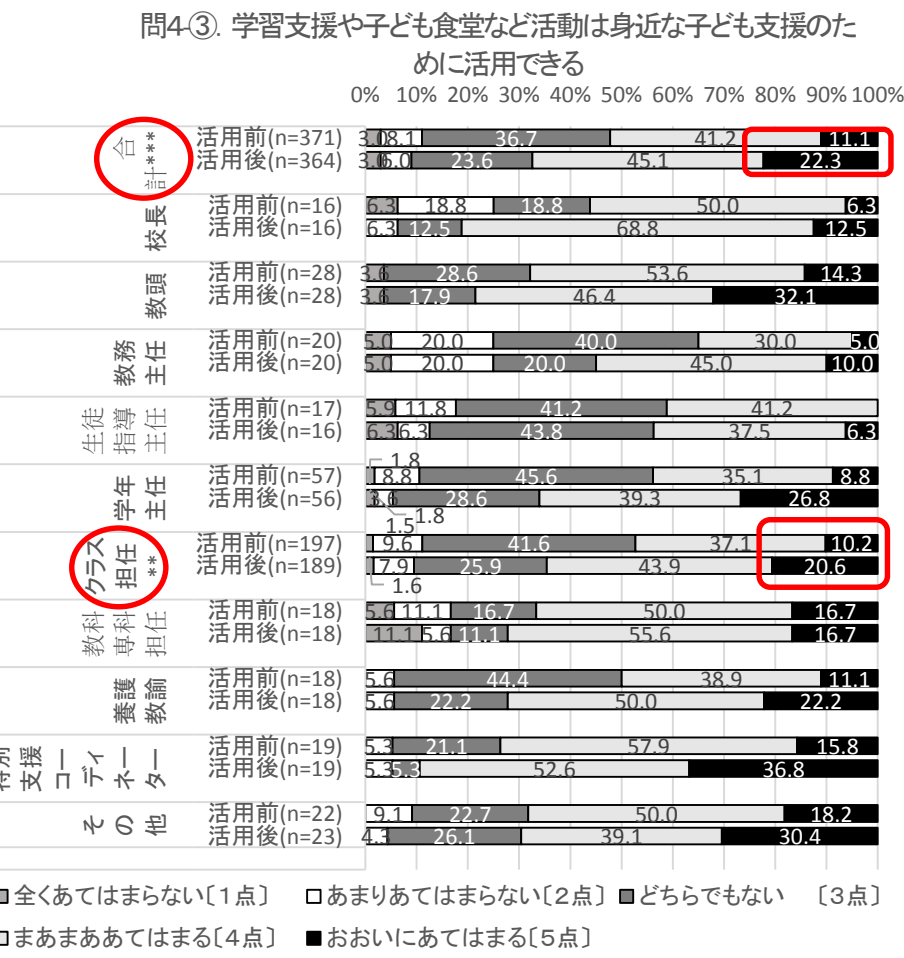
- 全体では、さまざまな問題を抱える児童（家庭が経済的困窮状態にある、発育や発達の遅れ等生育上に問題があったなど）や、発見しにくい問題を抱える保護者（生育歴が複雑であった、若年出産したなど）に対して、YOSS活用前と比べ、活用後の方がより気にかけるようになる傾向が見られる。
- 少ない回数（1～2回）でスクリーニングチェック、短い時間（15分以内）でスクリーニング会議が実施される場合においても、YOSS活用の効果が見られた。

→子どもの抱える問題や、保護者の抱える問題の早期発見につながる。

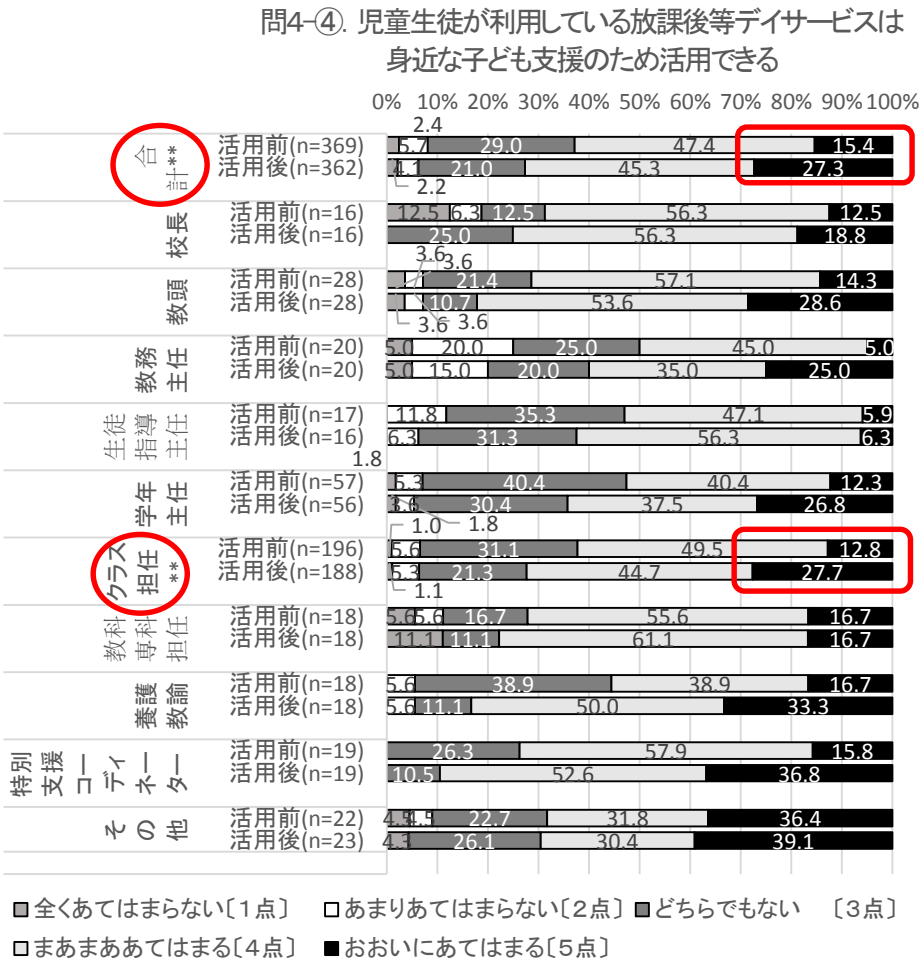
2. 子どもに関すること ～子どもに使うサービス～

2. 子どもに使うサービスに関すること①

◇職種別に別に見た、学習支援や子ども食堂など活動は身近な子ども支援のために活用できる程度



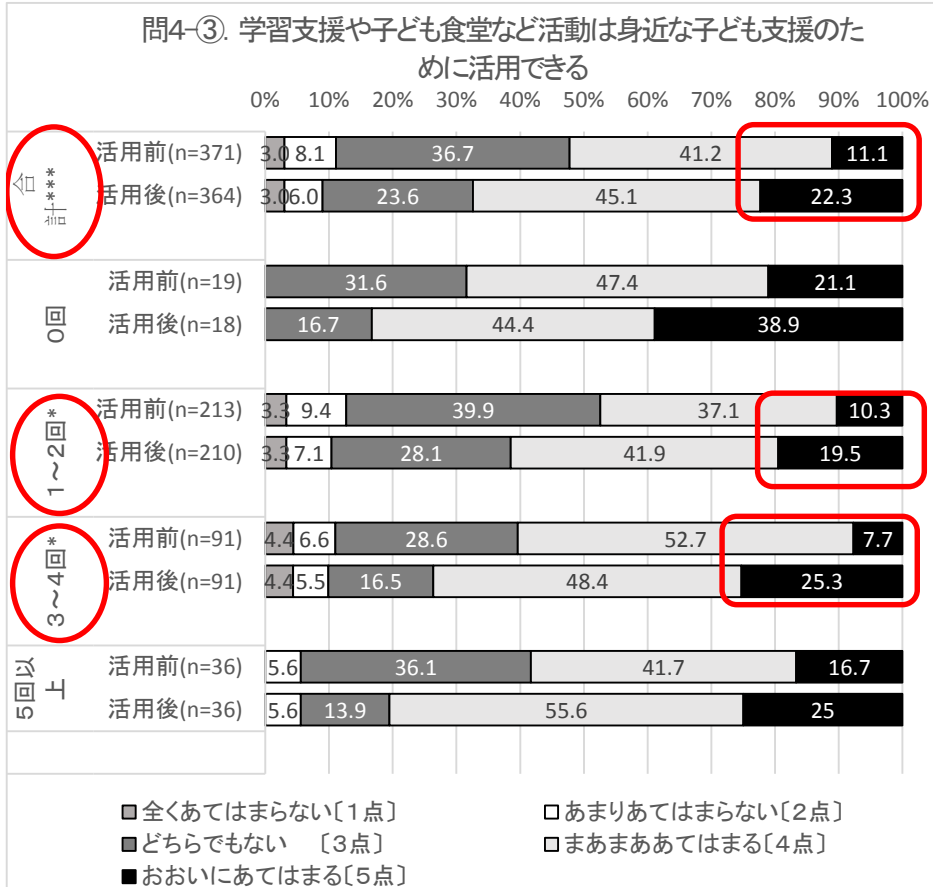
◇職種別に別に見た、児童生徒が利用している放課後等デイサービスは身近な子ども支援のために活用できる程度



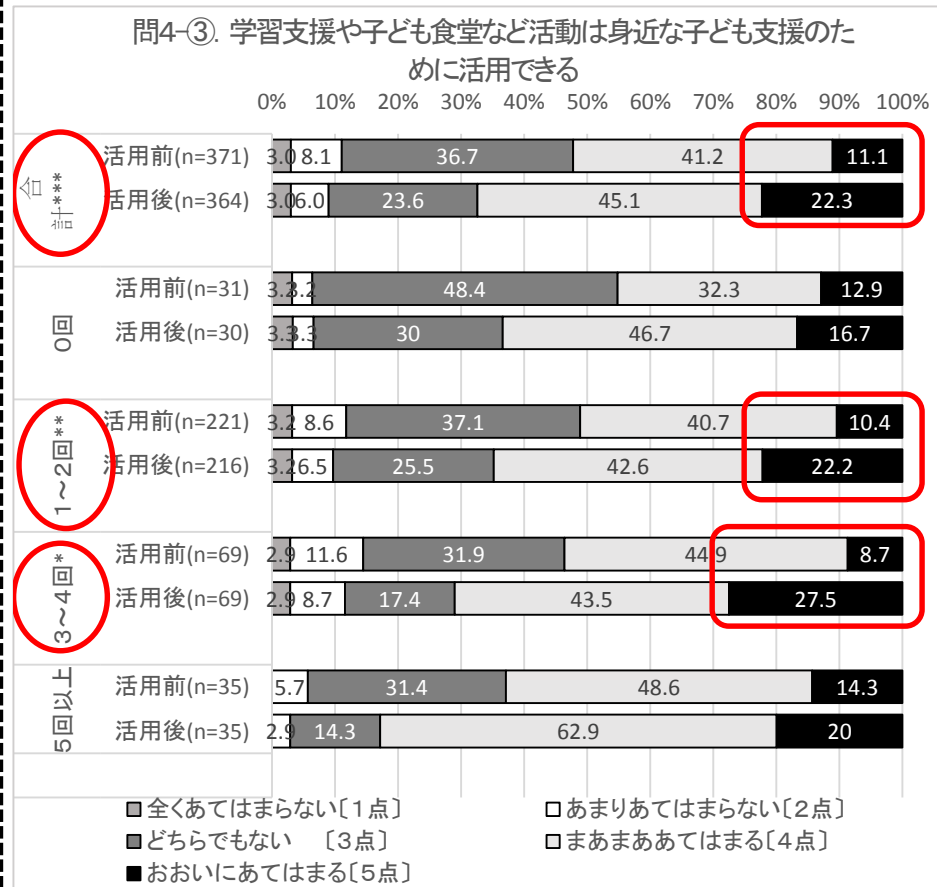
• YOSS活用前と比べ活用後の方が、地域のさまざまな資源は子ども支援のために活用できると思うようになった。

2. 子どもに使うサービスに関すること②

◇スクリーニングチェック実施回数別に見た、学習支援や子ども食堂など活動は身近な子ども支援のために活用できる程度



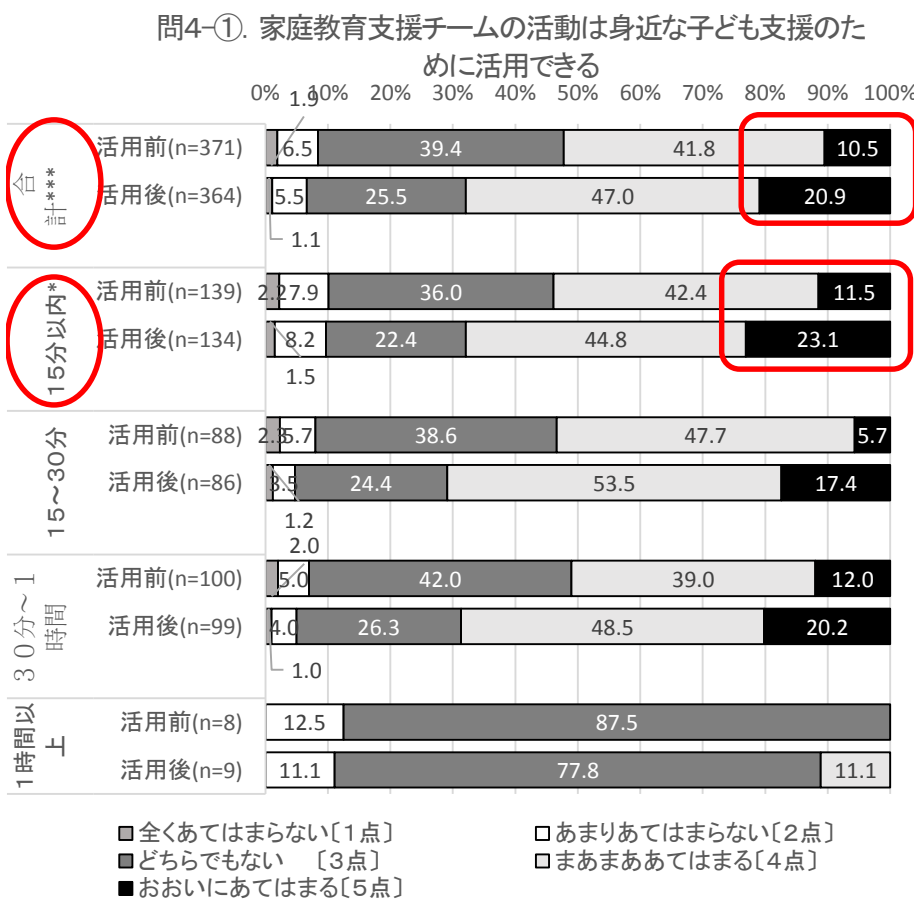
◇スクリーニング会議参加回数別に見た、学習支援や子ども食堂など活動は身近な子ども支援のために活用できる程度



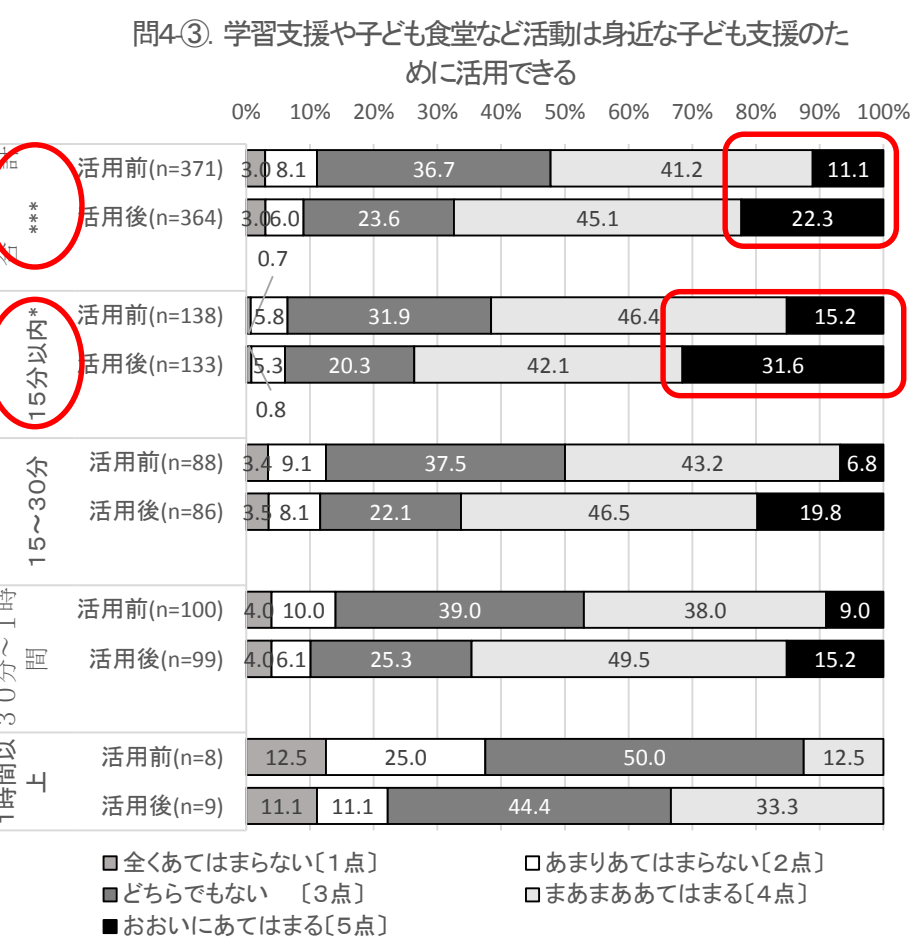
- 少ない回数（1~2回）でスクリーニングチェックやスクリーニング会議が実施される場合においても、地域資源の活用への認識におけるYOSS活用の効果が見られた。

2. 子どもに使うサービスに関すること③

◇ひとクラスにかかるスクリーニング会議の時間別に見た、家庭教育支援チームの活動は身近な子ども支援のために活用できる程度



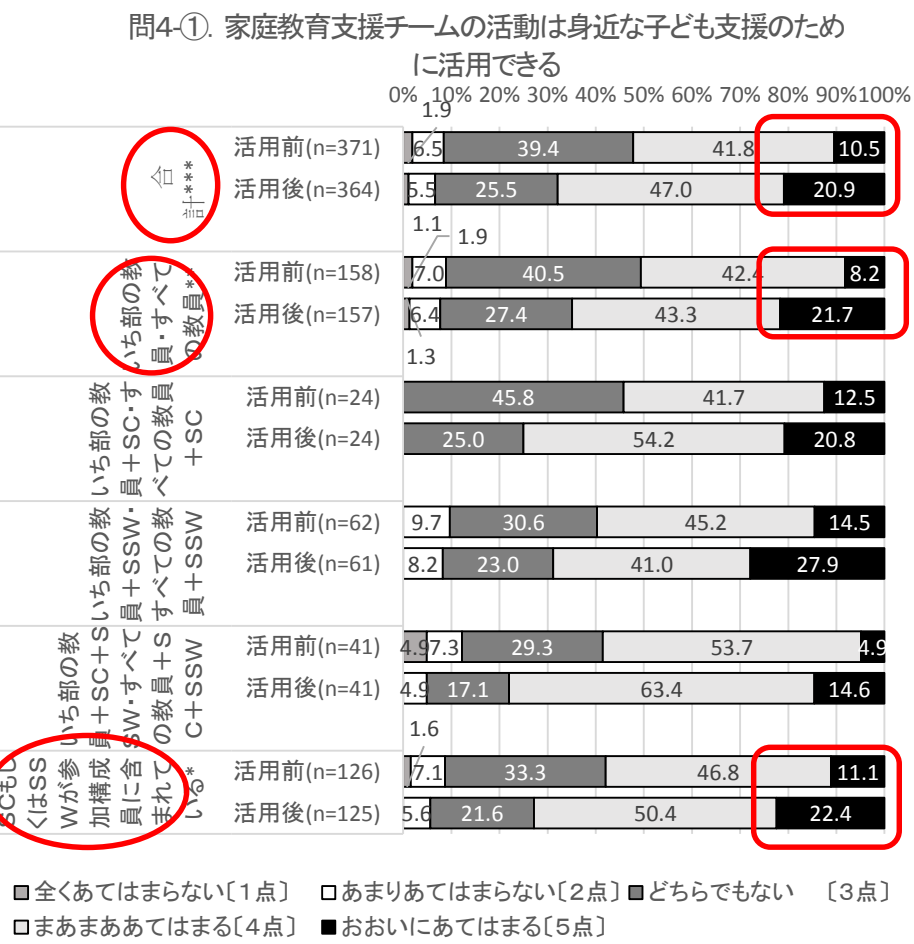
◇ひとクラスにかかるスクリーニング会議の時間別に見た、学習支援や子ども食堂など活動は身近な子ども支援のために活用できる



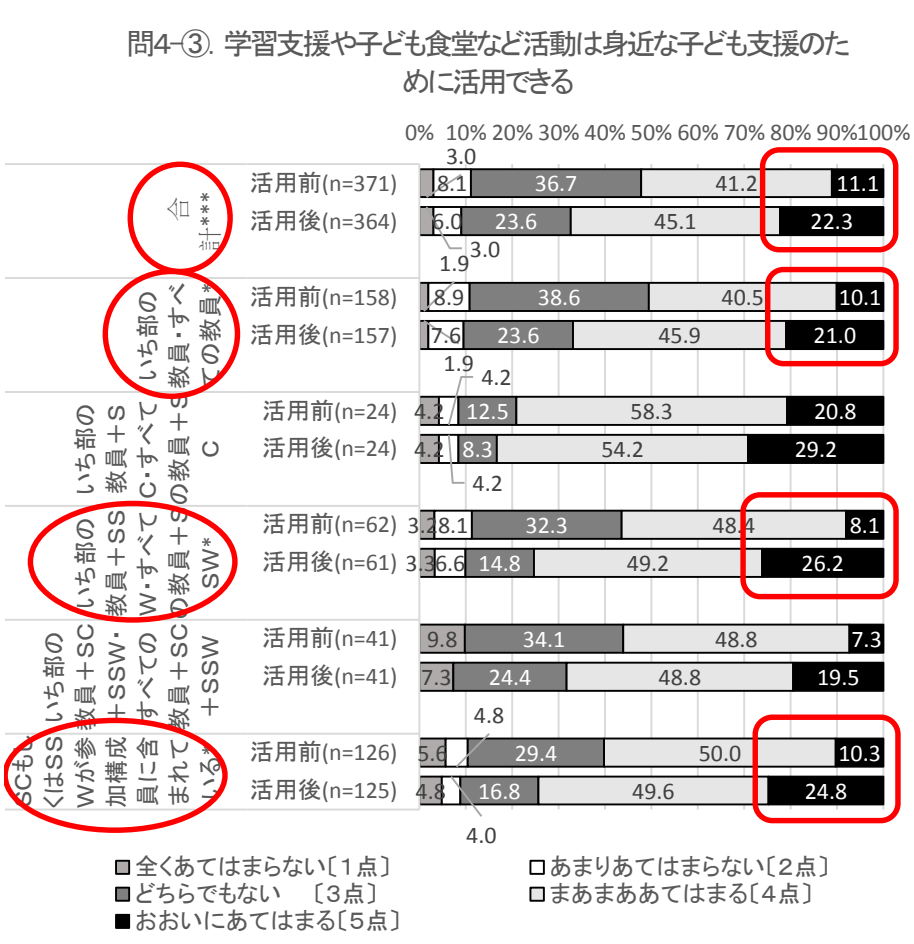
• 短い時間（15分以内）でスクリーニング会議が実施された場合においても、YOSS活用の効果が見られた。

2. 子どもに使うサービスに関すること④

◇校内チーム会議の参加構成員別に見た、家庭教育支援チームの活動は身近な子ども支援のために活用できる程度



◇校内チーム会議の参加構成員別に見た、学習支援や子ども食堂など活動は身近な子ども支援のために活用できる程度



・ 教員のみが校内チーム会議の参加構成員の場合においても、地域資源の活用への認識におけるYOSS活用の効果が見られた。

子どもに関すること

～子どもに使うサービスに関するまとめ

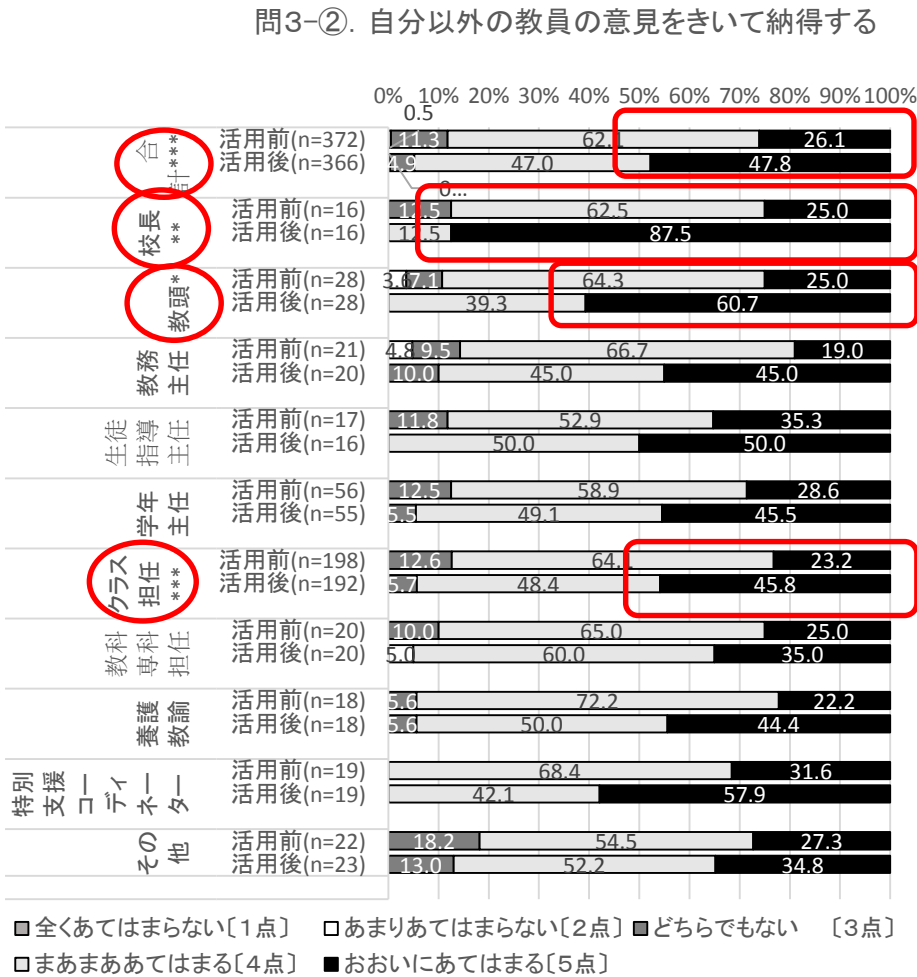
- **さまざまな地域資源や地域活動**は身近な子ども支援のために活用できるかどうかについて、YOSS活用前と比べ、活用後の方がより活用できると思うようになる傾向が見られる。
- 少ない回数（1～2回）、短い時間（15分以内）でスクリーニング会議が実施される場合においても、**地域資源や地域活動の活用への認識**におけるYOSS活用の効果が見られた。

→子どもの抱える問題、家庭状況の問題を早期発見した上で、地域資源や地域活用への認識が高まり、地域と連携することで、早期対応につながる。

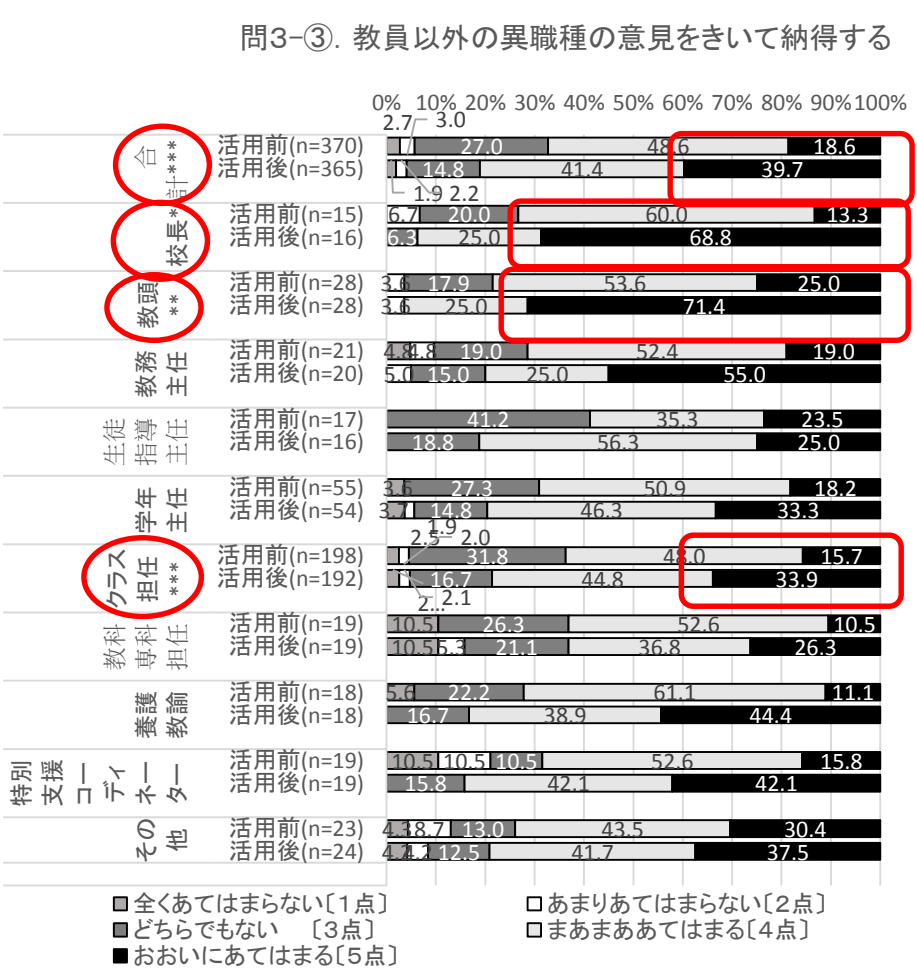
3. 教師に関すること ～学校・組織～

3. 学校・組織に関すること①

◇職種別に見た、自分以外の教員の意見をきいて納得する程度



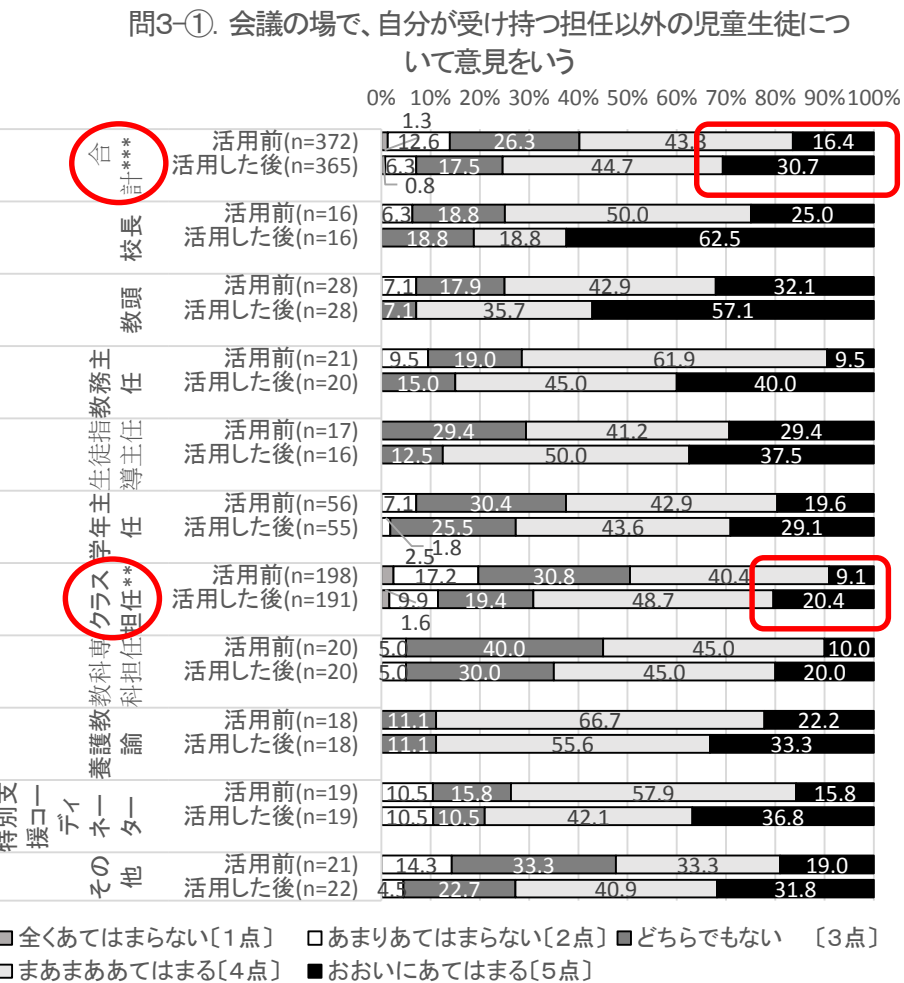
◇職種別に見た、教員以外の異職種の意見をきいて納得する程度



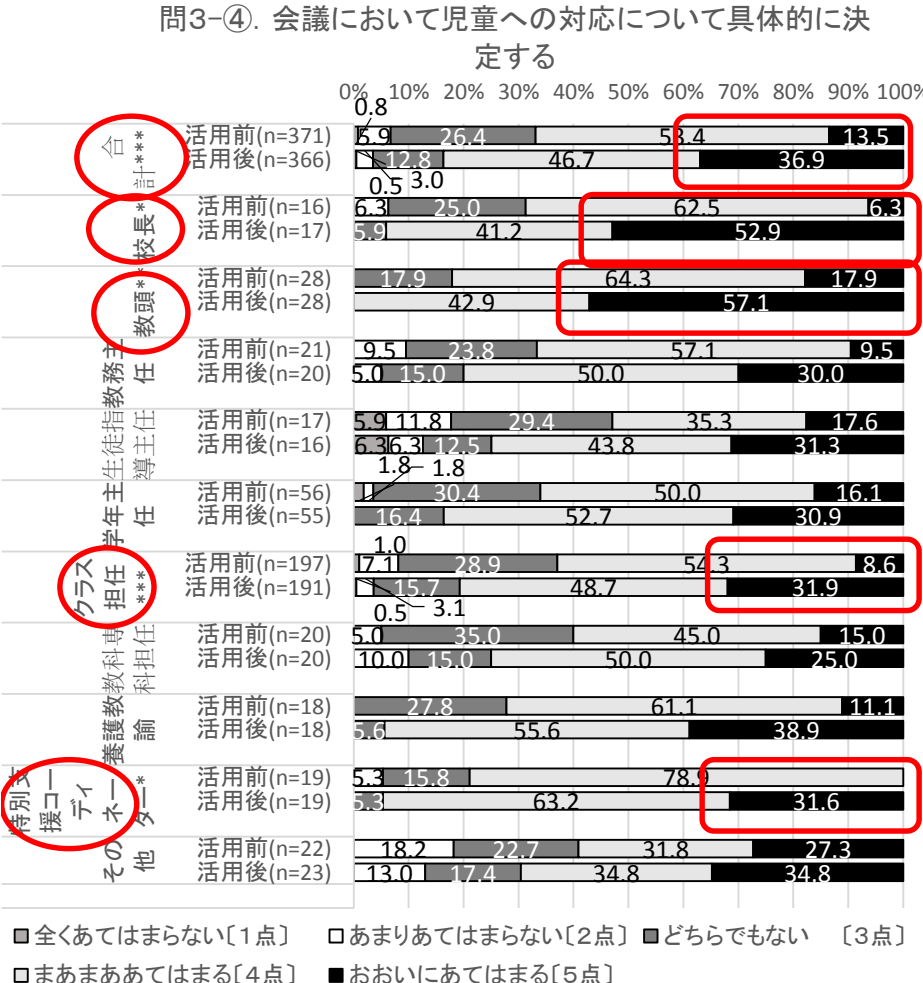
• 全体では、YOSS活用前と比べ、活用後の方が、より自分以外の教員の意見や教員以外の異職種の意見をきいて納得するようになった。

3. 学校・組織に関すること②

◇職種別に見た、会議の場で、自分が受け持つ担任以外の児童生徒について意見をいう程度



◇職種別に見た、職種別に見た、会議において児童への対応について具体的に決定する程度

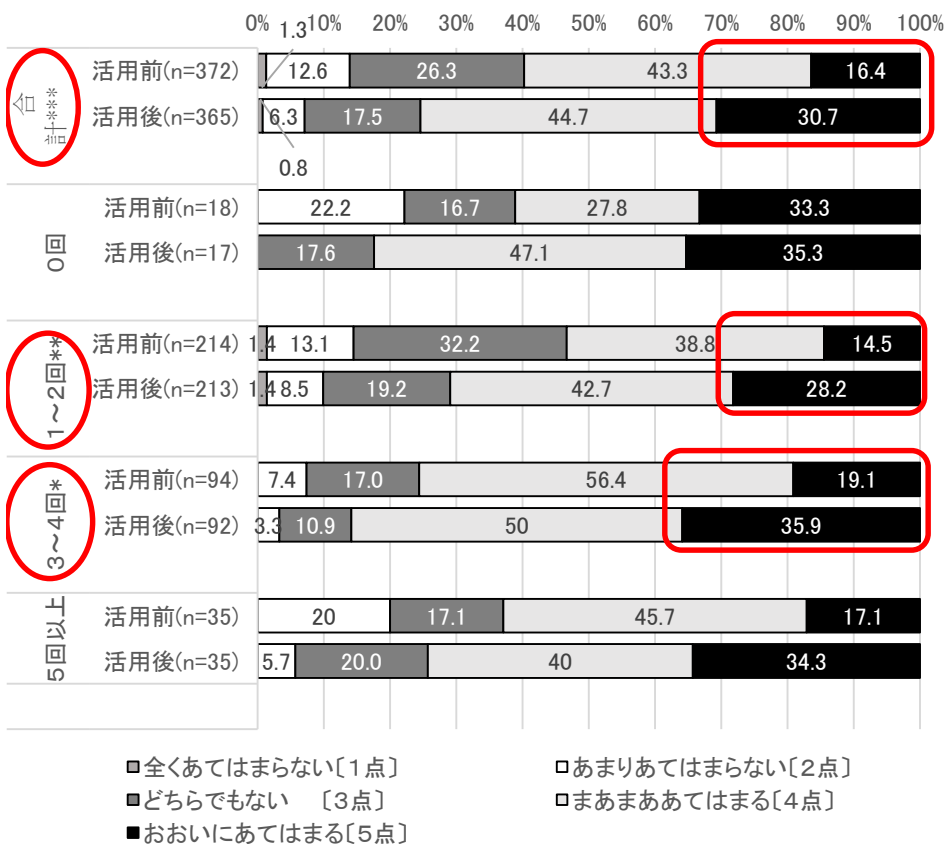


• 全体では、YOSS活用前と比べ、活用後の方が、より児童生徒について意見を言ったり、児童への対応について具体的に決定したりするようになった。

3. 学校・組織に関すること③

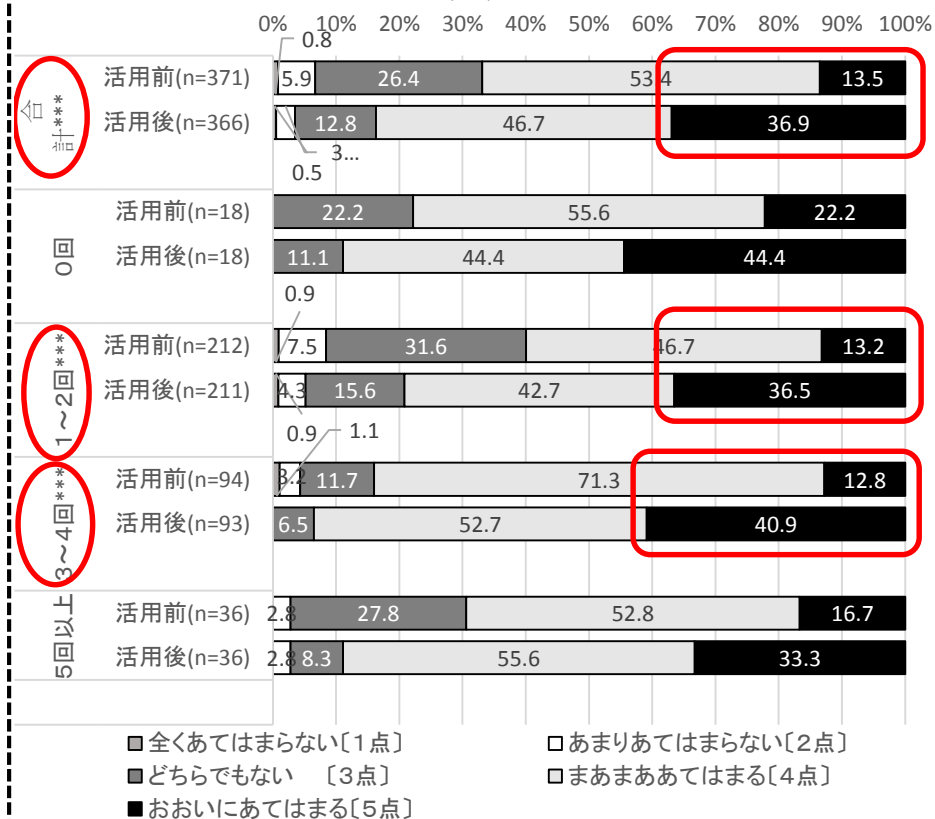
◇スクリーニングチェック実施回数別に見た、会議の場で、自分が受け持つ担任以外の児童生徒について意見をいう程度

問3-①. 会議の場で、自分が受け持つ担任以外の児童生徒について意見をいう



◇スクリーニングチェック実施回数別に見た、会議において児童への対応について具体的に決定する程度

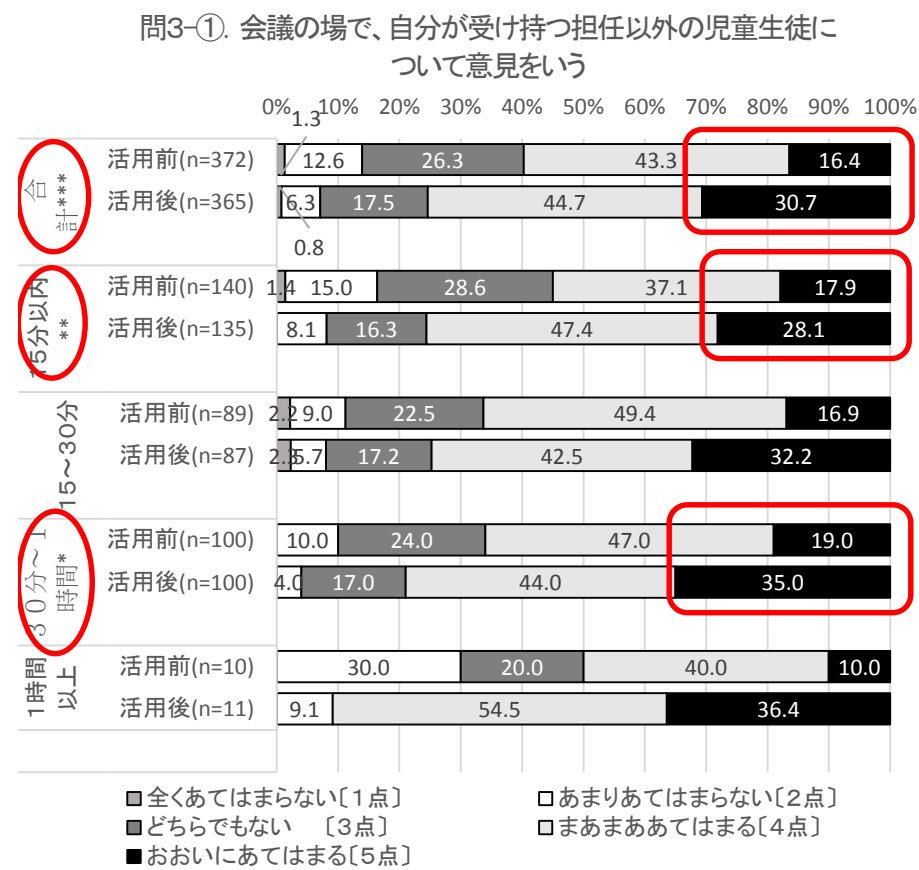
問3-④. 会議において児童への対応について具体的に決定する



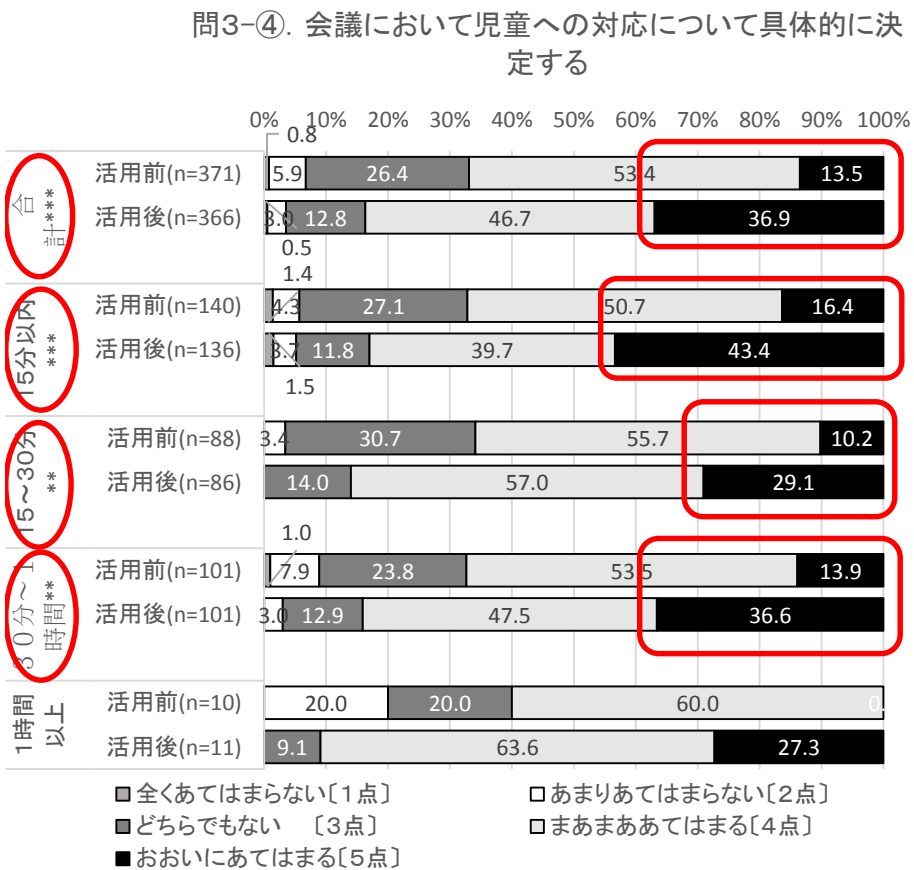
- 少ない回数（1～2回）でスクリーニング会議が実施される場合においても、意見主張と意思決定におけるYOSS活用の効果が見られた。

3. 学校・組織に関すること④

◇ひとクラスにかけるスクリーニング会議の時間別に見た、会議の場で、自分が受け持つ担任以外の児童生徒について意見をいう程度



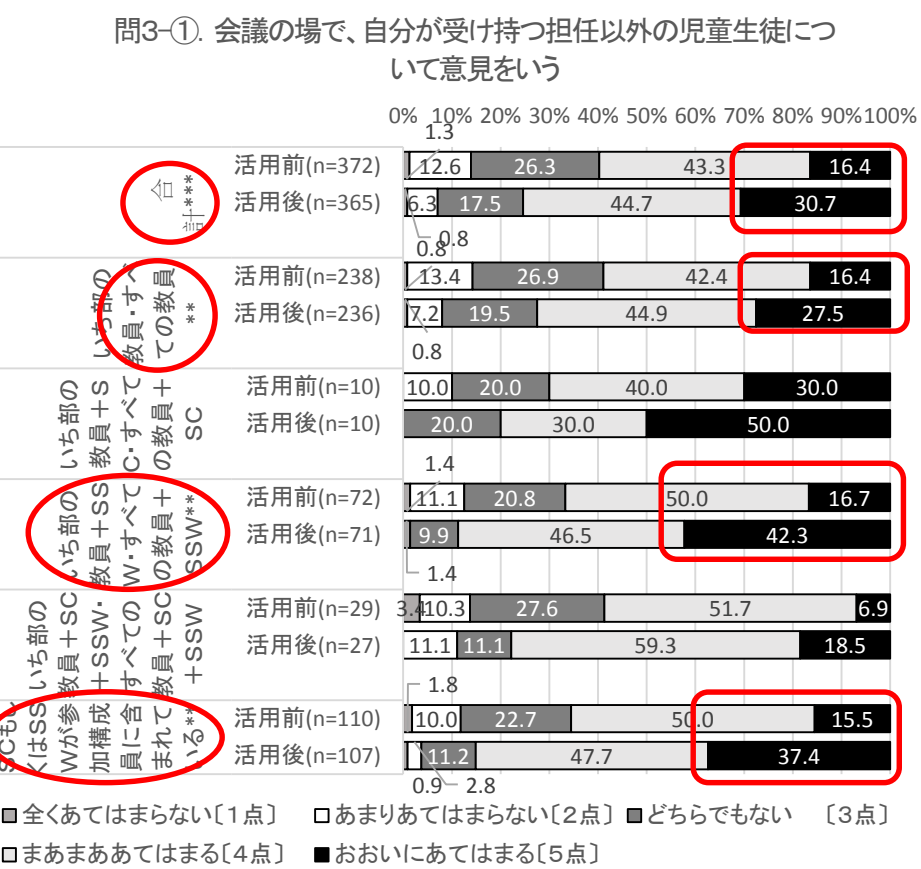
◇ひとクラスにかけるスクリーニング会議の時間別に見た、会議において児童への対応について具体的に決定する程度



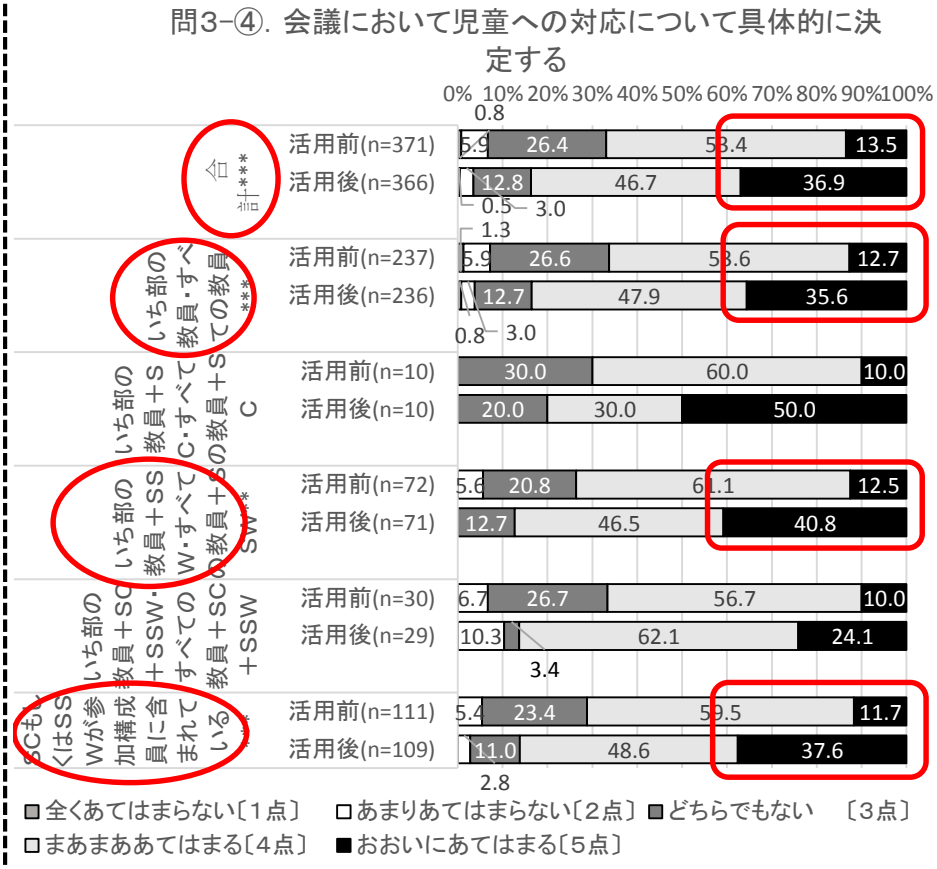
• 短い時間（15分以内）でスクリーニング会議が実施される場合においても、意見主張と意思決定におけるYOSS活用の効果が見られた。

3. 学校・組織に関すること⑤

◇スクリーニング会議の参加構成員別に見た、会議の場で、自分が受け持つ担任以外の児童生徒について意見をいう程度



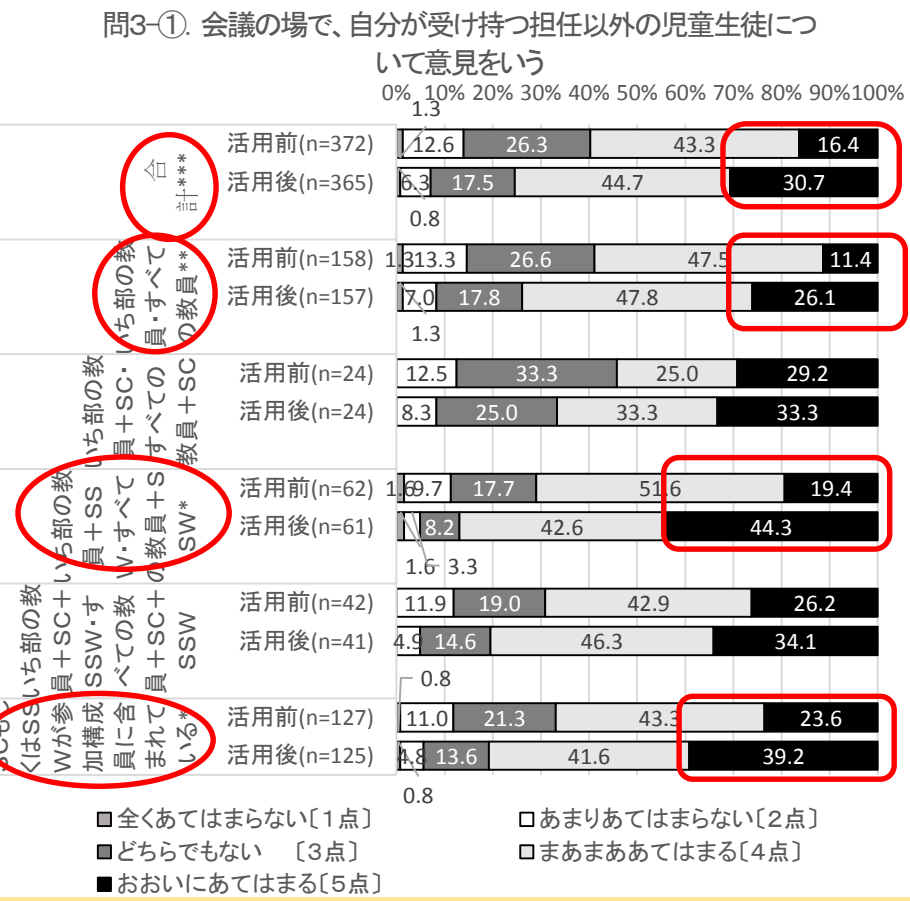
◇スクリーニング会議の参加構成員別に見た、会議において児童への対応について具体的に決定する程度



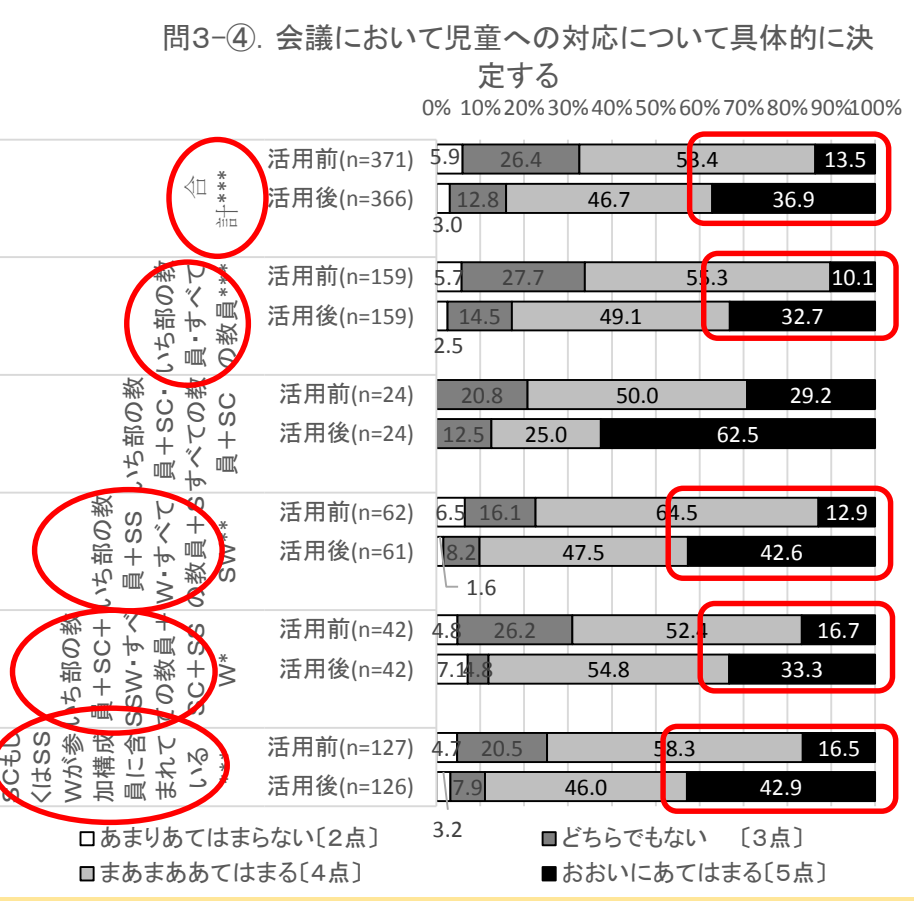
- ・ 教員のみがスクリーニング会議の参加構成員の場合においても、意見主張と意思決定におけるYOSS活用の効果が見られた。
- ・ YOSS活用後、専門職の方（SC/SSW）がいる場合はそうでない場合と比べ、より意見主張と意思決定ができる傾向が見られた。

3. 学校・組織に関すること⑥

◇校内チーム会議の参加構成員別に見た、会議
の場で、自分が受け持つ担任以外の児童生徒に
ついて意見をいう程度



◇校内チーム会議の参加構成員別に見た、会議
において児童への対応について具体的に決定す
る程度



- 教員のみが校内チーム会議の参加構成員の場合においても、意見主張と意思決定におけるYOSS活用の効果が見られた。
- YOSS活用後、専門職の方（SC/SSW）がいる場合はそうでない場合と比べ、より意見主張と意思決定ができる傾向が見られた。

教師に関すること

～学校・組織に関するまとめ

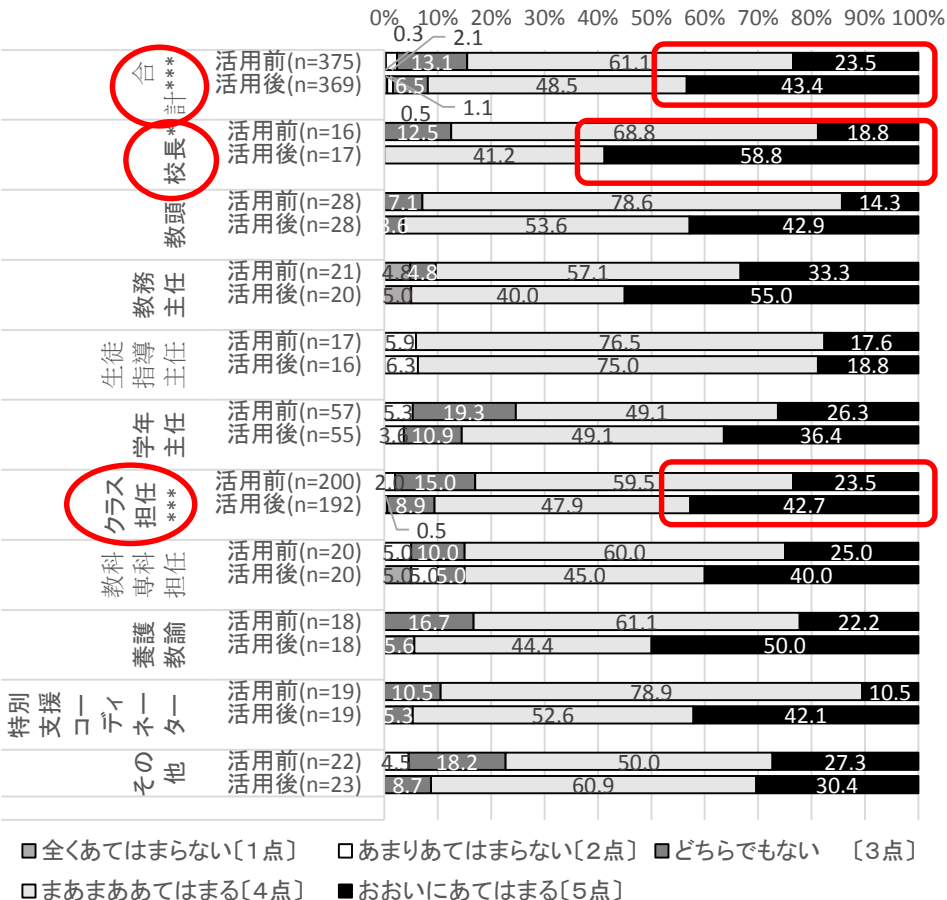
- 全体では、YOSS活用前と比べ、活用後の方がより児童生徒について意見を言ったり、自分以外の教員や教員以外の異職種の意見を聞いて納得したり、会議中に児童への対応について具体的に決定できたりするようになる傾向が見られる。
 - 少ない回数（1～2回）でスクリーニングチェックやスクリーニング会議、短い時間（15分以内）でスクリーニング会議が実施される場合においても、YOSS活用の効果が見られた。
 - 教員のみがスクリーニング会議/校内チーム会議の参加構成員の場合においても意見主張と意思決定におけるYOSS活用の効果が見られたが、専門職の方（SC/SSW）がいる場合はそうでない場合と比べ、より意見主張と意思決定ができる傾向が見られた。
- 教員は気軽に気になる子どもの状況を確認や報告できるような組織体制作りにつながる。
- 教員は意見主張・意見受容・意思決定などの意欲が高まり、専門職の方（SC/SSW）と適切につなぐことで、教師の抱え込みの改善、児童の課題に対する対応力の向上につながる。

4. 教師に関すること ～教師の意識・知識～

4. 教師の意識・知識①

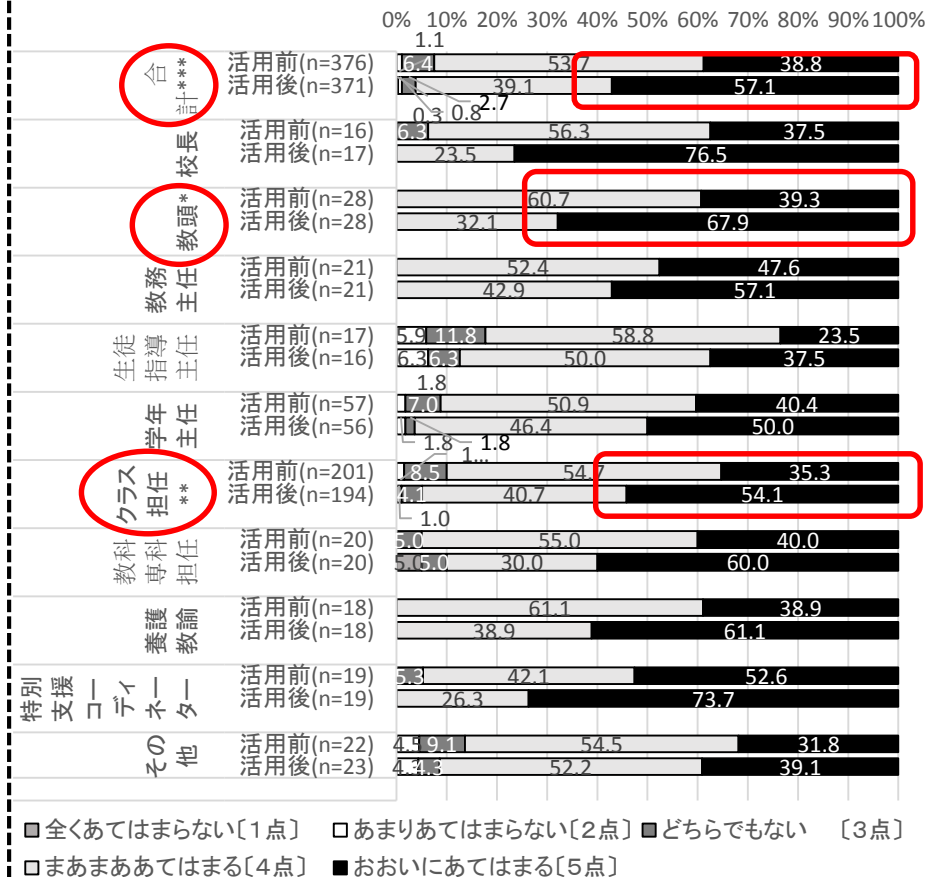
◇職種別に見た、児童生徒の問題行動等に関して、みんなでかかわっていけばできる気がする程度

問5-①. 児童生徒の問題行動等に関して、みんなでかかわっていけばできる気がする



◇職種別に見た、みんなで色々な意見を出し合うことは有益である程度

問5-②. みんなで色々な意見を出し合うことは有益である

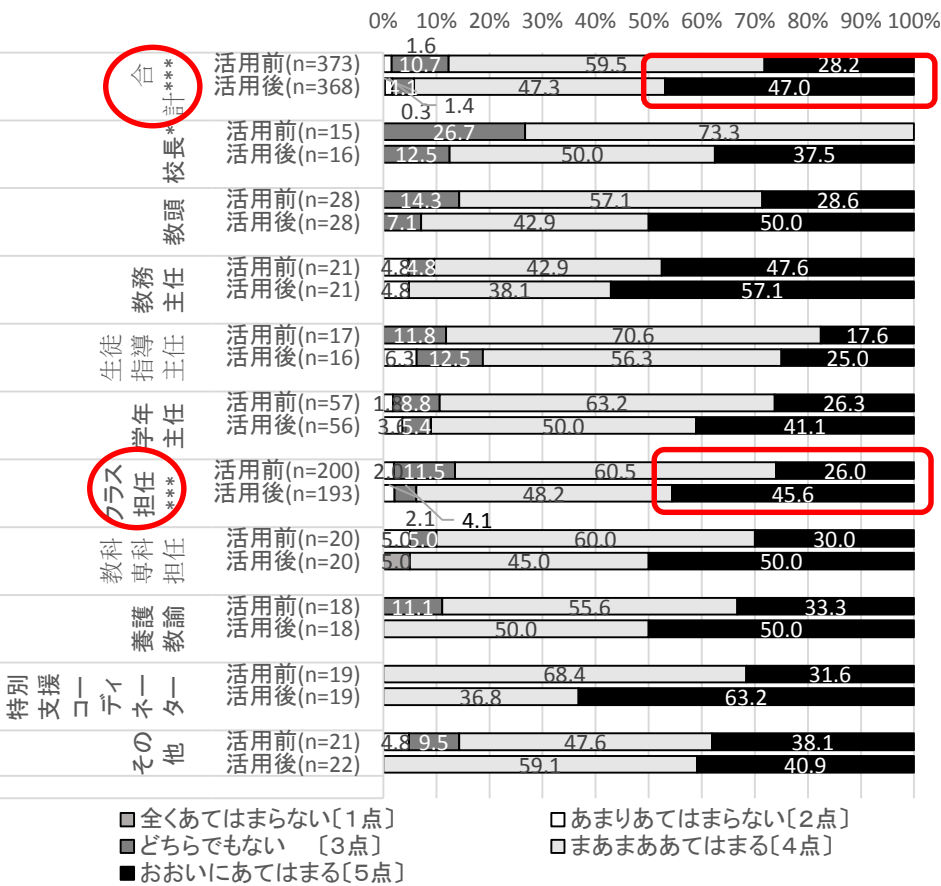


• 全体では、YOSS活用前と比べ活用後の方が、より「みんなでかかわっていけばできる」、「みんなで色々な意見を出し合うことは有益である」と思うようになった。

4. 教師の意識・知識②

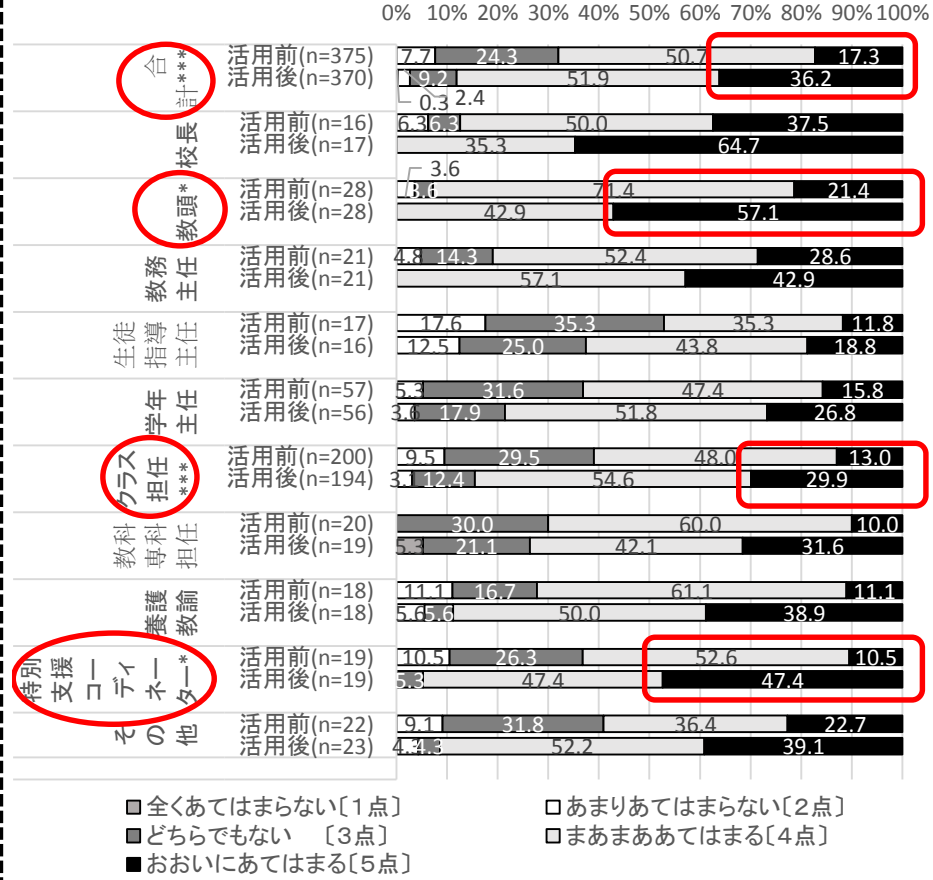
◇職種別に見た、チーム活動は他の人の意見を聞くことができるので自分の知識も増える程度

問5-④. チーム活動は他の人の意見を聞くことができるので自分の知識も増える



◇職種別に見た、SSWやSCなど学校における専門職の役割を理解する程度

問5-⑦. SSWやSCなど学校における専門職の役割を理解する

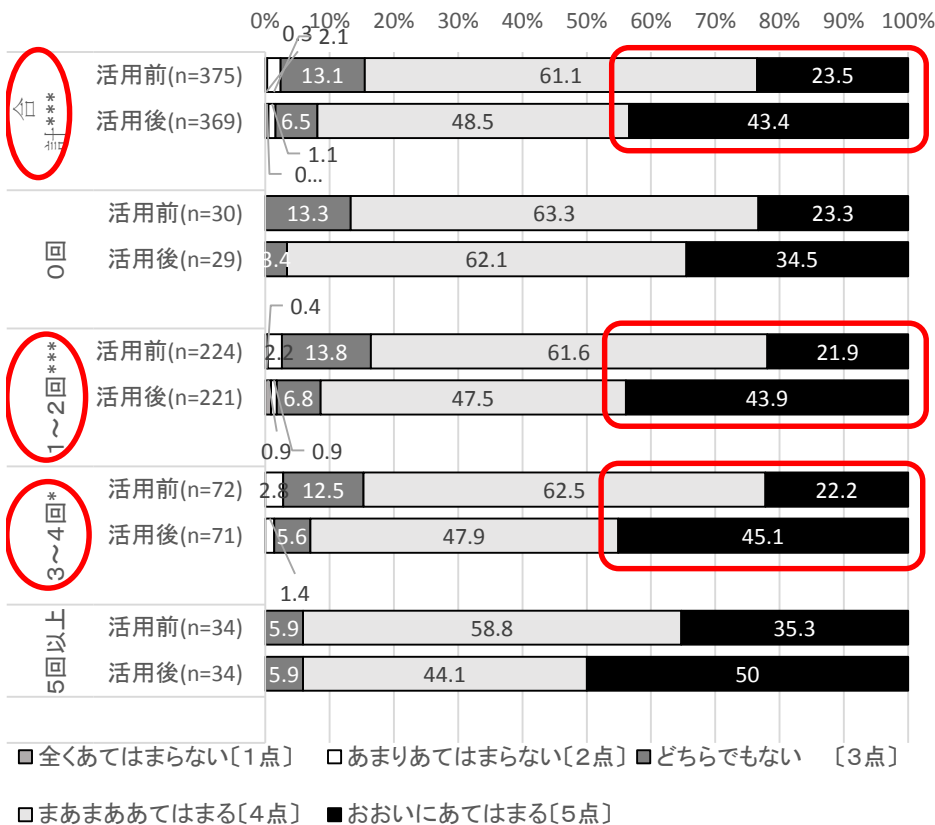


• 全体では、YOSS活用前と比べ活用後の方が、より自分の知識が増え、専門職の役割を理解できるようになった。

4. 教師の意識・知識③

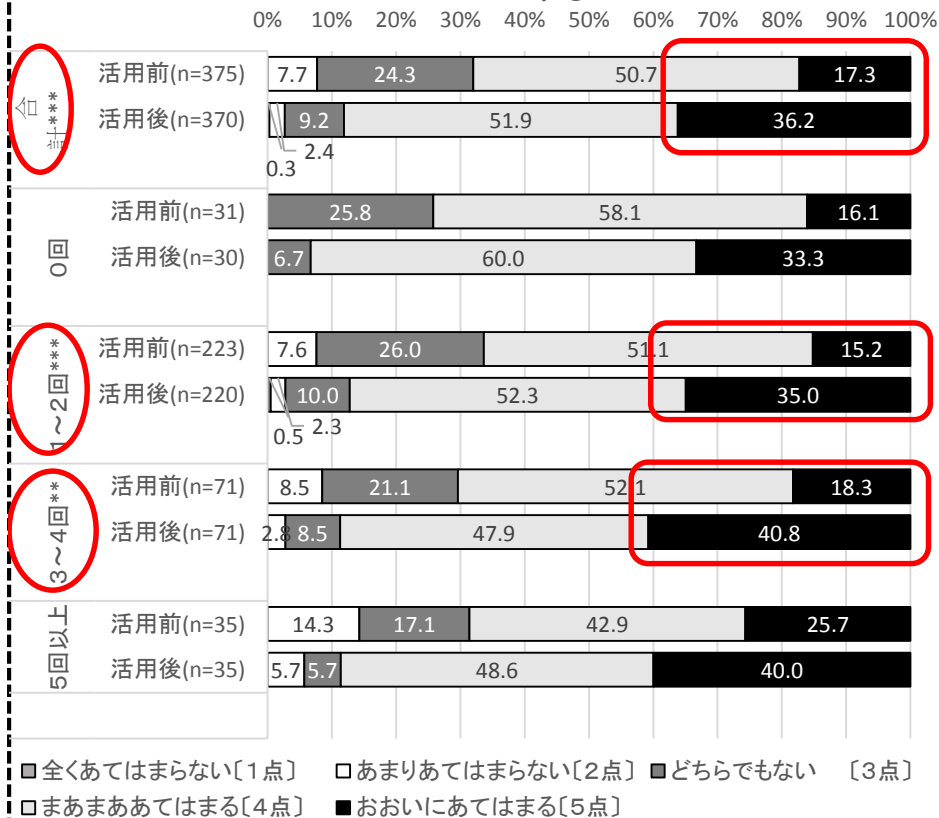
◇スクリーニング会議参加回数別に見た、児童生徒の問題行動等に関して、みんなでかかわっていけばできる気がする程度

問5-①. 児童生徒の問題行動等に関して、みんなでかかわっていけばできる気がする



◇スクリーニング会議参加回数別に見た、SSWやSCなど学校における専門職の役割を理解する程度

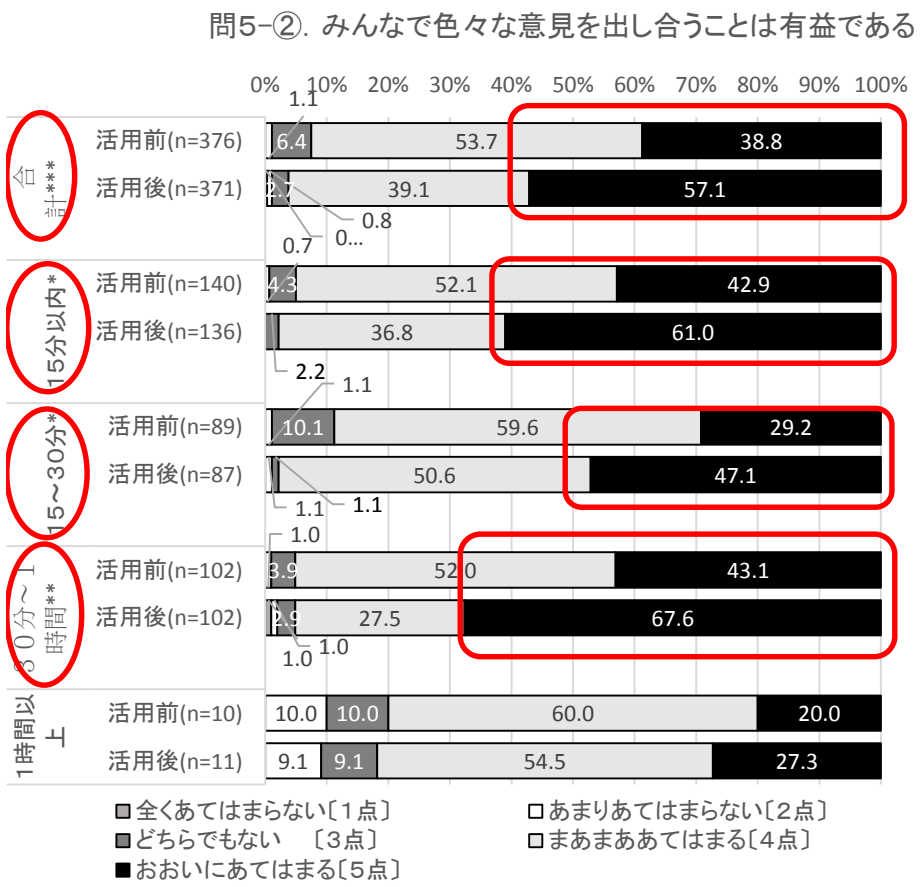
問5-⑦. SSWやSCなど学校における専門職の役割を理解する



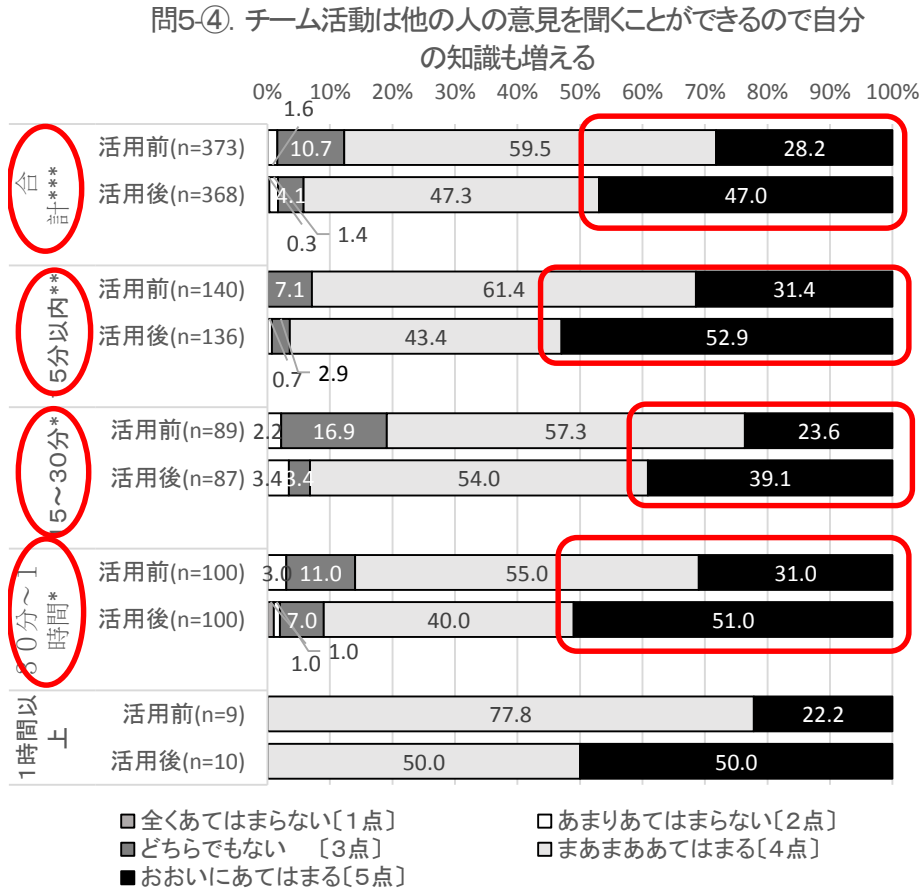
- 少ない回数（1～2回）でスクリーニング会議に参加した場合においても、より「みんなでかかわっていけばできる気がする」と思い、専門職の役割をより理解できるようになった。

4. 教師の意識・知識④

◇ひとクラスにかかるスクリーニング会議の時間別に見た、みんなで色々な意見を出し合うことは有益である程度



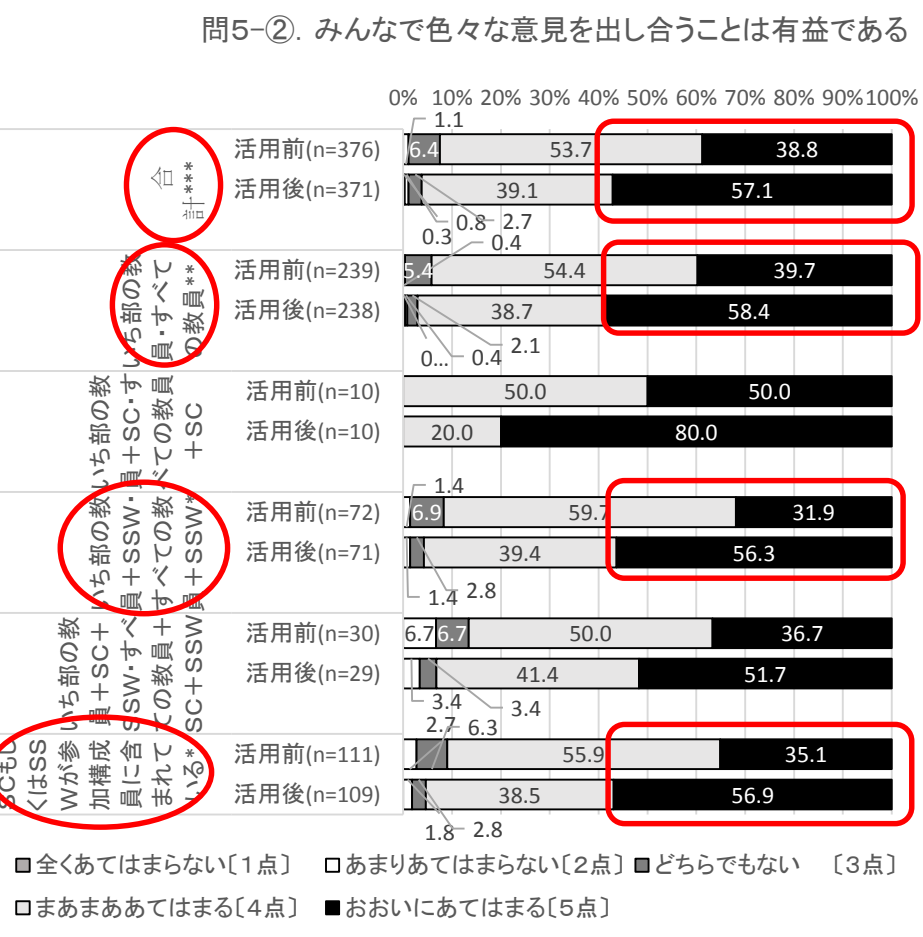
◇ひとクラスにかかるスクリーニング会議の時間別に見た、チーム活動は他の人の意見を聞くことができるので自分の知識も増える程度



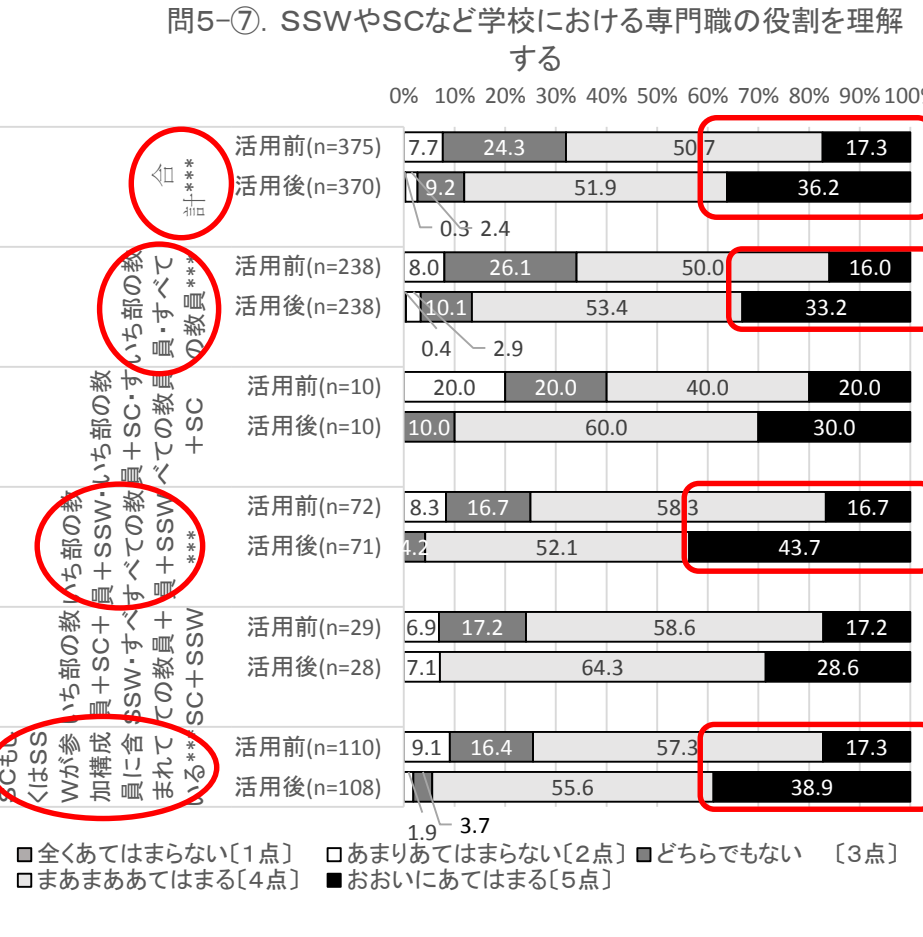
• 短い時間（15分以内）でスクリーニング会議が行われた場合においても、意見を出し合うことはより有益であり、自分の知識が増えると思うようになった。

4. 教師の意識・知識⑤

◇スクリーニング会議の参加構成員別に見た、みんなで色々な意見を出し合うことは有益である程度



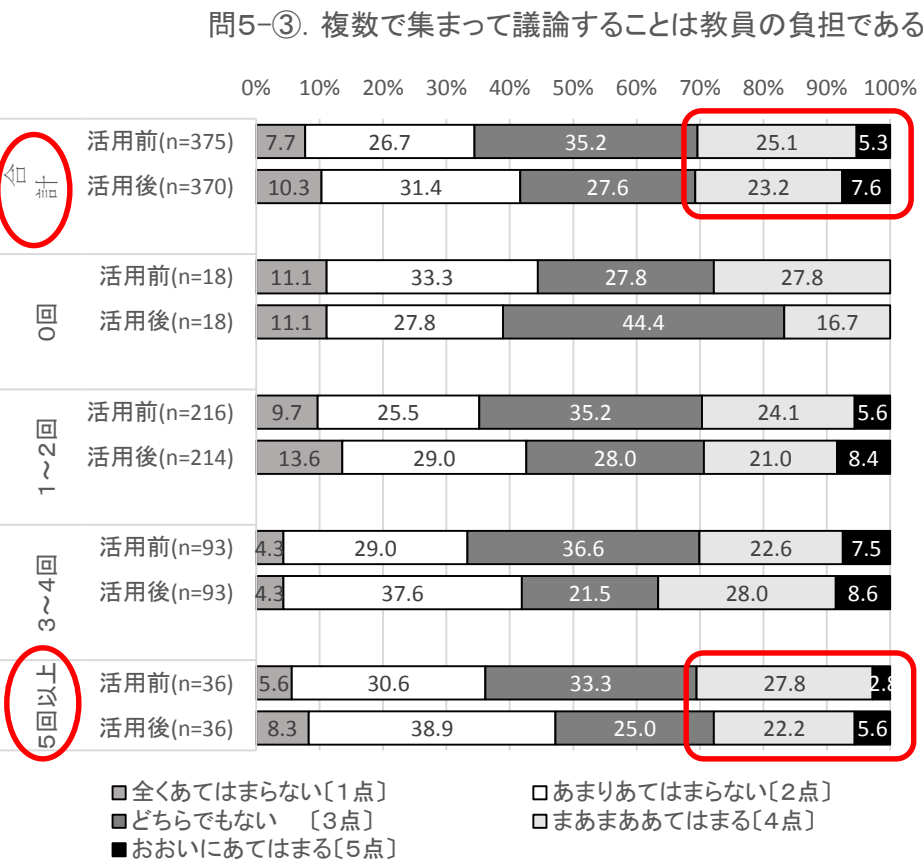
◇スクリーニング会議の参加構成員別に見た、SSWやSCなど学校における専門職の役割を理解する程度



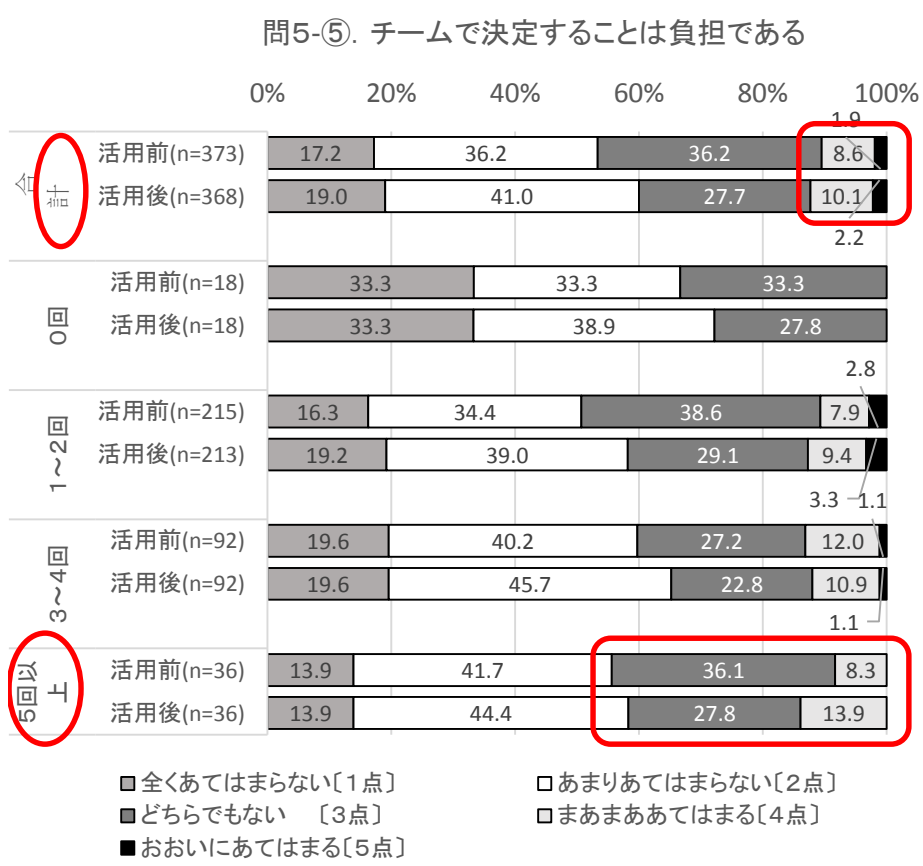
- 教員のみがスクリーニング会議の参加構成員の場合においても、YOSS活用の効果が見られた。
- YOSS活用後、SCがいる場合はそうでない場合と比べ、意見を出し合うことはより有益であると思う傾向が見られた。

4. 教師の意識・知識⑥

◇スクリーニングチェック実施回数別に見た、複数で集まって議論することは教員の負担である程度



◇スクリーニングチェック実施回数別に見た、チームで決定することは負担である程度

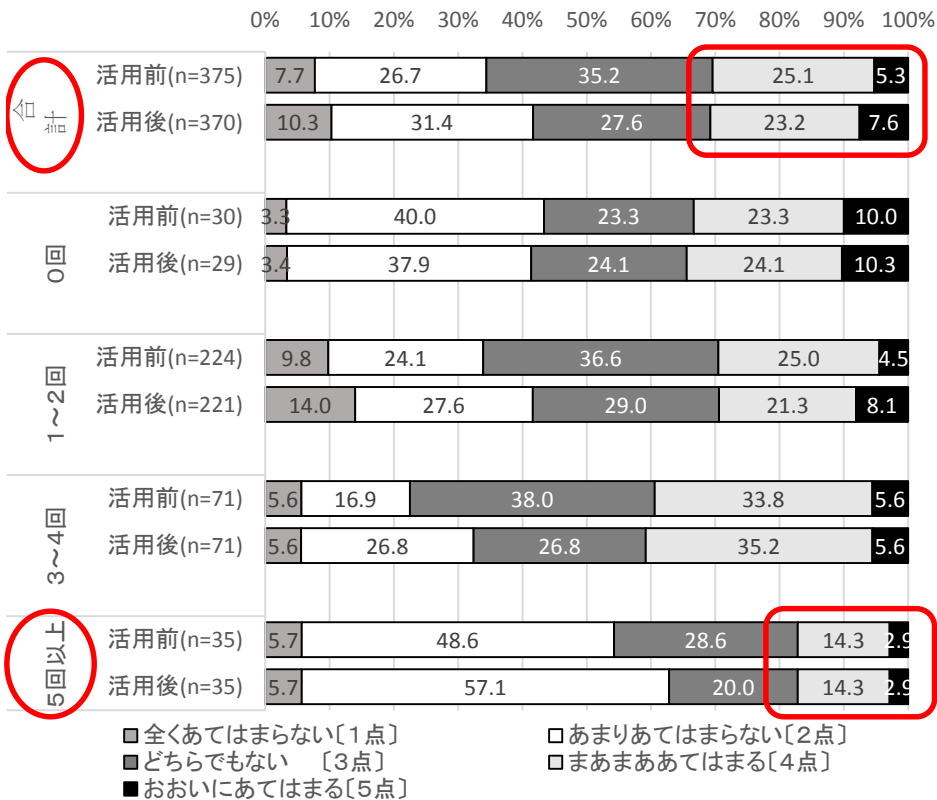


・ スクリーニングチェック回数に関わらず、活用前後でそれぞれの選択肢の割合に違いは見られず、YOSSの活用によって複数で集まって議論すること、チームで決定することに対して、教員の負担は増えたとは言えない。

4. 教師の意識・知識⑦

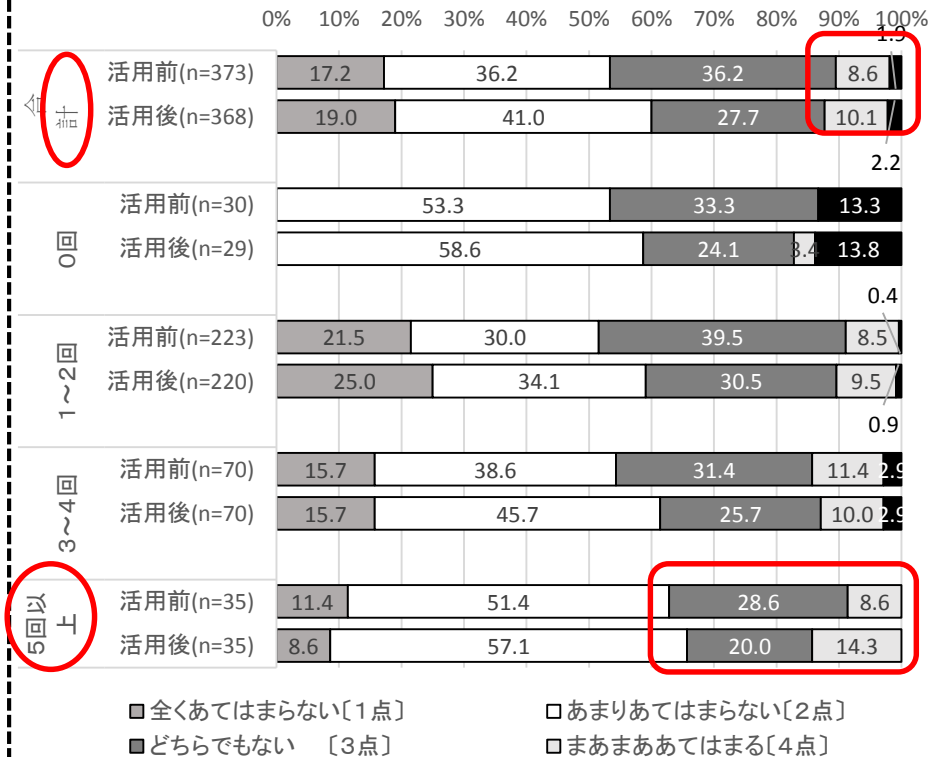
◇スクリーニング会議参加回数別に見た、複数で集まって議論することは教員の負担である程度

問5-③. 複数で集まって議論することは教員の負担である



◇スクリーニング会議参加回数別に見た、チームで決定することは負担である程度

問5-⑤. チームで決定することは負担である

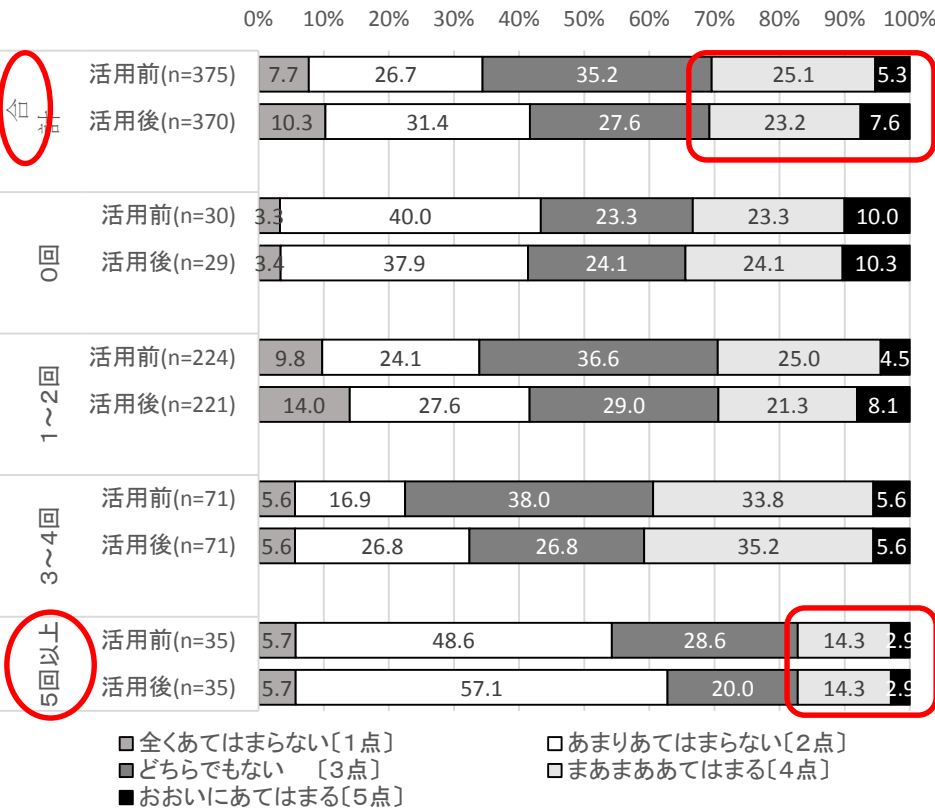


- スクリーニング会議の参加回数に関わらず、活用前後でそれぞれの選択肢の割合に違いは見られず、YOSSの活用によって複数で集まって議論すること、チームで決定することに対して、教員の負担は増えたとは言えない。

4. 教師の意識・知識⑧

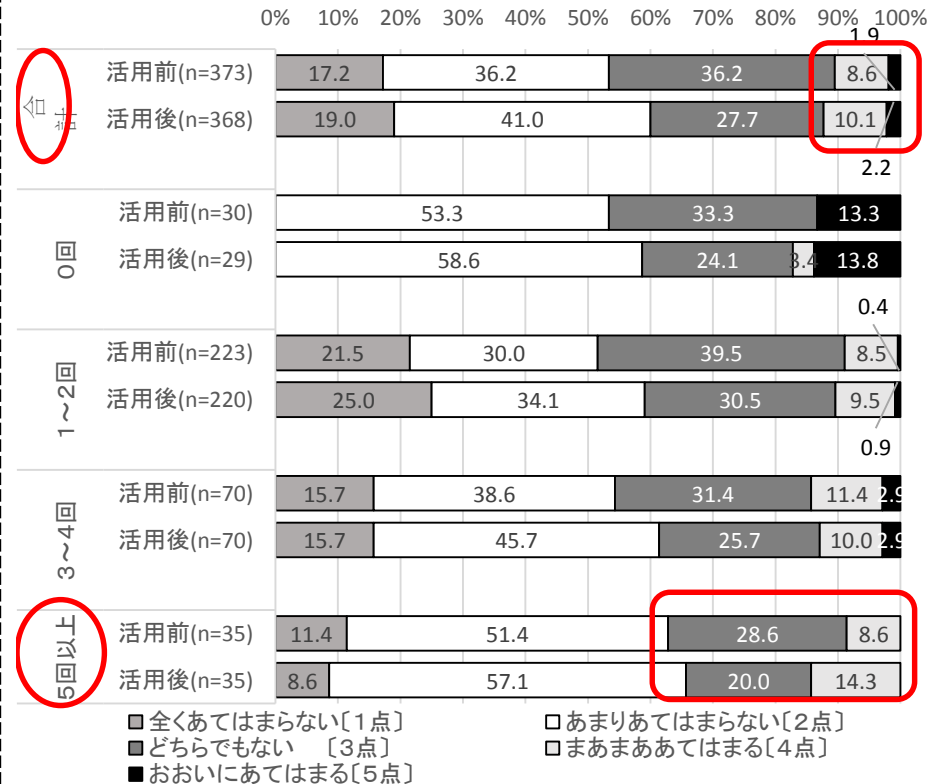
◇校内チーム会議参加回数別に見た、複数で集まって議論することは教員の負担である程度

問5-③. 複数で集まって議論することは教員の負担である



◇校内チーム会議参加回数別に見た、チームで決定することは負担である程度

問5-⑤. チームで決定することは負担である



- 校内チーム会議の参加回数に関わらず、活用前後でそれぞれの選択肢の割合に違いは見られず、YOSSの活用によって複数で集まって議論すること、チームで決定することに対して、教員の負担は増えたとは言えない。

教師に関すること

～教師の意識と知識に関するまとめ

- 全体では、YOSS活用前と比べ、活用後の方がより、児童の問題の解決可能性や意見主張の有益性、自身の知識の蓄積、学校における専門職の役割への理解が高まると認識するようになる傾向が見られる。
- 少ない回数（1～2回）、短い時間（30分以内）でスクリーニング会議が実施される場合においても、YOSS活用の効果が見られた。
- 教員のみがスクリーニング会議の参加構成員の場合においてもYOSS活用の効果が見られたが、専門職の方（SC）がいる場合はそうでない場合と比べ、より意見・主張の有益性を感じている傾向が見られた。
- これまで、複数で集まって議論したり、チームで決定したりするのは教員にとっては負担となるのではないかと懸念されているが、本調査では、YOSSを活用することで、こういった負担は増える傾向が見られなかった。

→YOSSの活用により、専門職の職務内容への理解が高まるだけでなく、教師自身の成長につながり、教師間の協働性の向上につながる。

自由記述 ※一部抜粋

- スクリーニングシートを使うことで、気にかけていた児童が実はチェックが少なかったり、気にかけていなかった児童にチェックが多数ついたり、意外な気づきが多く、学級経営にも生かしている。また、会議で全クラスの児童の実態を知ることができる。学年全体で見守ることができる。
- 方向性と実行性が高まる印象である。自分があまり気にとめていなかった生徒の意見をもらえるため、新しい角度で生徒を見ることができる。
- 学級担任時(YOSSの存在を知らなかった時期)に、子どもや家庭の課題へのアプローチは、自身の経験上得たわずかな知識で判断していました。しかし、YOSSを知ることによって、数値化するデータの中にたくさんの知識や気づきが含まれることを知りました。そして、専門職(SC・SSWなど)重要性や関係諸機関との連携(特に“福祉”との連携)の必要性をますます強く感じることができます。SC・SSWの常勤化を切に願います。
- スクリーニングできたことにより、より鮮明に生徒が抱える問題を知ることができたが、それをどう地域や関係機関につなげていくか結局、それがないとただ職員の負担が増えるだけで終わってしまいます。もう少しシステム化していく作業が必要だと思います。コロナ禍における、保健所や病院の情報の一元管理化と同様のものができていくことを期待します。

総合考察①

• 1.スクリーニング会議の有用性

- 教師の意識や行動の差を確認でき、3つの課題に対して有効性がみられたことから、「児童の課題のスクリーニングが有効であり、これを機能させるにはSCer・SSWerの常勤化が有効である」という仮説が実証されたと考える。SCer・SSWerの配置はスクリーニングに有効に機能することが示唆された。

• 子どものリスクの早期発見ほかについて

- さまざまな問題を抱える児童や、発見しにくい家庭環境を持つ子どものみならず、保護者に関するキャッチする視点がYOSS活用前後比較において活用後に明らかに上昇している。

• SCer・SSWerの明確化と有用性

- SCer・SSWerの存在は発見を強化することを示した。
- SCer・SSWerの役割に深く関連する支援機能を確認した

• 教師の協働意識について

- スクリーニング会議の実施が、教職員間の協働、SCer・SSWerを含む各学校の教育相談体制の活用・意欲の醸成、学校運営体制による教師への影響力の強化に資する可能性が見出された。

総合考察②

・ 2. スクリーニングの重要な機能

- ・ スクリーニングに含まれる以下の3要素は、課題①②③を改善させるポイントであったと考える。
 - ・ a：些細な懸念をピックアップすること
 - ・ b：複数人で話し合うこと
 - ・ c：暫定的に決定すること
- ・ 管理職の抱え込みが明らかになり、bとcが喫緊に必要である。これが今回の調査によって、数値として明らかに示されたといえよう。

総合考察③

・ 3. スクリーニングの効果的な方法

- ・ 全教員で全児童生徒を検討するが、1クラス15分くらいのスピードでこなし、支援の方向性を決めることを重要点としていたが、効果としても実証されたといえる。
- ・ 教師集団が意見を言うことに慣れているかどうか、他者からの意見を受け入れることができるかどうかなど集団の排他性や凝集性に関わってくる。
- ・ 今回の調査で管理職を中心に変化がみられることから、教師集団が変わる可能性はあり、スクリーニング会議を制度的に意義付けて設置することによって意見交換し決定することへの意識が高くなることが示唆される。

総合考察④

・ 4. 専門的役割と責務

- SCer・SSWerは、個別事例といったミクロ面へのアプローチだけではなく、**効果的なスクリーニング会議の管理・運営**、教育相談体制・学校運営体制の充実といった**マクロ面への働きかけ（マクロ実践）**の役割を明確化すべきである。
- ミクロに個別事例を丁寧に1件ずつ教師にコンサルテーションできる**SCerは、ミクロ実践に強みがある**。この両者が、学校内で機能を明確化して、**両輪で動いていくことが重要であろう**。
- SSWerのソーシャルワーク実践を**ガイドラインにしっかり位置付ける必要がある**。